



溫
故
雜
帖

卷
十七

2715
17



第十七

高文正公江戶圖新記	一	手紙陸明土至天武乾曆	一
安政五年正月江戶大火細見圖	一	上代謙信願文、秀澄	一
慶應三年正月江戶大火本圖	一	泰直主卷書	三
武藏野吹雪	一	和歌十首	一
武藏國江戶大鏡渡圖	一	妹城入道秀澄	
武藏國湯田川新繪圖	一	故本江戶軍公日記	
小山田世清自筆見沼通船點圖	一	本宮城攻下和歌秀澄、女化	
新編去國	一	去後見和歌物本	
多摩城大跡圖	一	明保三年長坂原時討水	
江代三年利根川大洪水圖	一	臺本、板本	
元治元年江戶大火燒揚方角片	一	清國親光圖注評、湖城	
官印有字用之敵雙用紙	二		
魚類本墨墨三三圖	六		
玉虫蛭厨子圖、墨書版	三		
江島園千秋館圖	一		
神代山室物墨書版	二		
西原千聖廟土間、墨書版	一		
其五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十一殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十二殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十三殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十四殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其十九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十一殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十二殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十三殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十四殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其二十九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十一殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十二殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十三殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十四殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其三十九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十一殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十二殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十三殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十四殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其四十九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十一殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十二殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十三殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十四殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其五十九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十一殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十二殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十三殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十四殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其六十九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十一殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十二殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十三殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十四殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其七十九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十一殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十二殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十三殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十四殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其八十九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十一殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十二殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十三殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十四殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十五殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十六殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十七殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十八殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其九十九殿書道物和陽石硯屏圖	一		
其一百殿書道物和陽石硯屏圖	一		

其四十四殿書道物和陽石硯屏圖

一

其四十五殿書道物和陽石硯屏圖

一

其四十六殿書道物和陽石硯屏圖

一

其四十七殿書道物和陽石硯屏圖

一

其四十八殿書道物和陽石硯屏圖

一

其四十九殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十一殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十二殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十三殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十四殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十五殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十六殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十七殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十八殿書道物和陽石硯屏圖

一

其五十九殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十一殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十二殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十三殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十四殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十五殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十六殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十七殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十八殿書道物和陽石硯屏圖

一

其六十九殿書道物和陽石硯屏圖

一

其七十殿書道物和陽石硯屏圖

一

其七十一殿書道物和陽石硯屏圖

一

其七十二殿書道物和陽石硯屏圖

一

其七十三殿書道物和陽石硯屏圖

一

其七十四殿書道物和陽石硯屏圖

一

其七十五殿書道物和陽石硯屏圖

一

其七十六殿書道物和陽石硯屏圖

一

其七十七殿書道物和陽石硯屏圖



一 けさ高坂 志山 麻布 志保
 志保 三田 芝罘 高縄
 一 けさ高坂 志山 麻布 志保
 志保 三田 芝罘 高縄

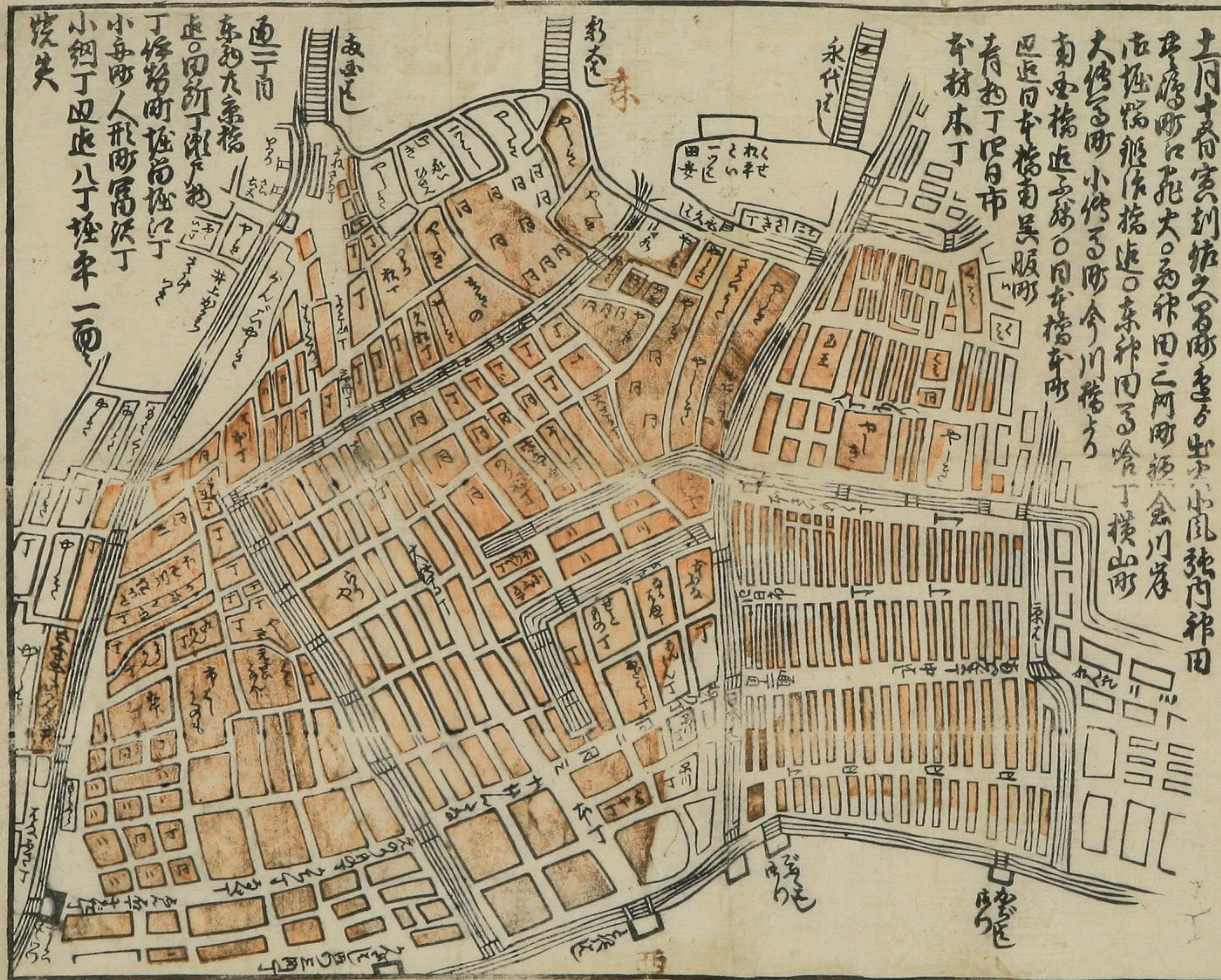
一 大橋 志山 志保 志保
 志保 志保 志保 志保
 志保 志保 志保 志保
 志保 志保 志保 志保

寛文拾三年
 二月吉日
 遠近通印

種師 志山 志保

卷之六

慶長五年江戶大火細見圖 十月十五日



十月十五日江戶大火細見圖
上町十番宮前町之町並
中町十番宮前町之町並
下町十番宮前町之町並
大橋町十番宮前町之町並
南橋町十番宮前町之町並
西橋町十番宮前町之町並
東橋町十番宮前町之町並
北橋町十番宮前町之町並

大橋町十番宮前町之町並
南橋町十番宮前町之町並
西橋町十番宮前町之町並
東橋町十番宮前町之町並
北橋町十番宮前町之町並

南橋町十番宮前町之町並
西橋町十番宮前町之町並
東橋町十番宮前町之町並
北橋町十番宮前町之町並

西橋町十番宮前町之町並
東橋町十番宮前町之町並
北橋町十番宮前町之町並

東橋町十番宮前町之町並
北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

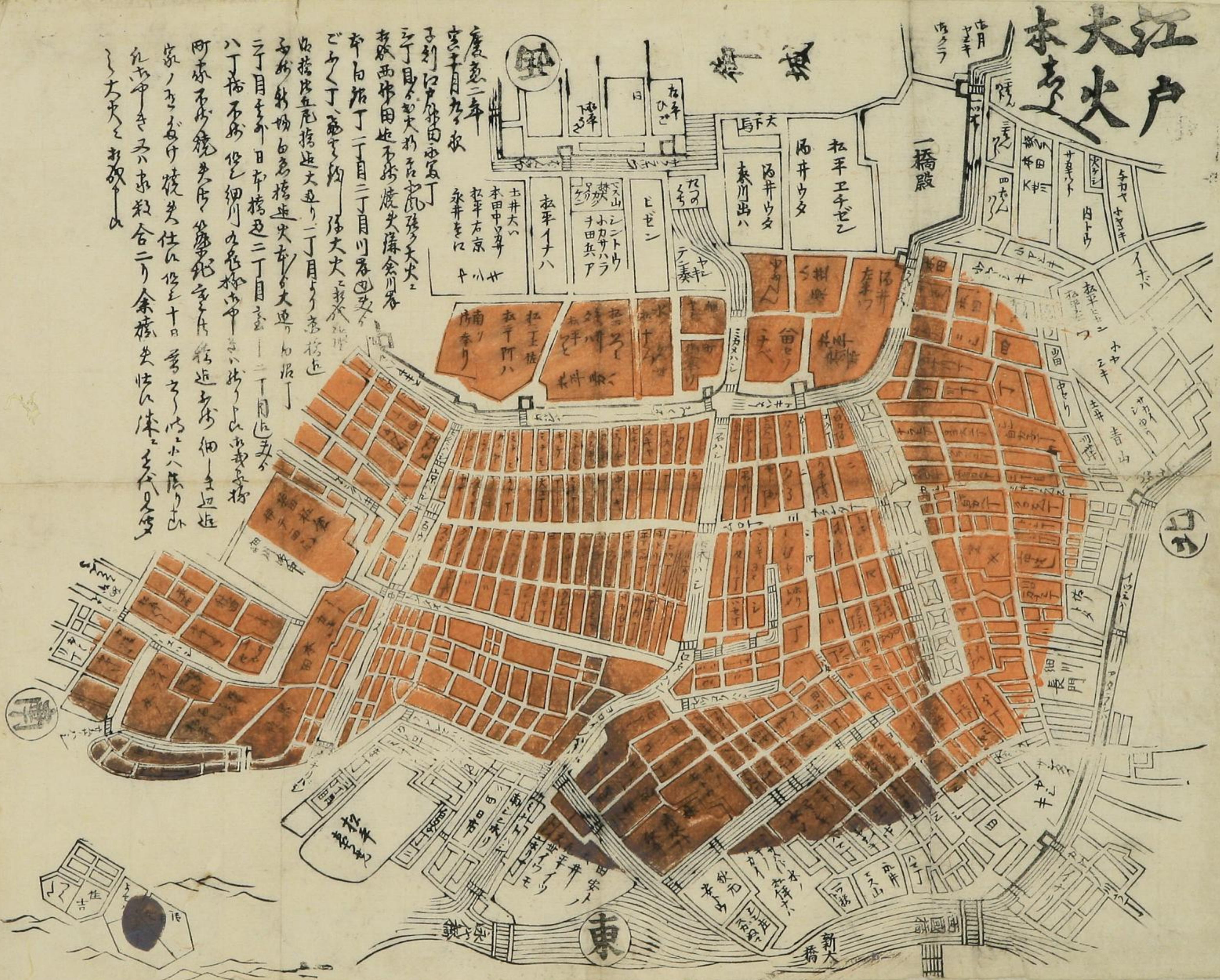
北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

北橋町十番宮前町之町並

江戸大火

本町



寛政二年
天明二年
江戸大火の始り
本町一丁目
本町二丁目
本町三丁目
本町四丁目
本町五丁目
本町六丁目
本町七丁目
本町八丁目
本町九丁目
本町十丁目
本町十一丁目
本町十二丁目
本町十三丁目
本町十四丁目
本町十五丁目
本町十六丁目
本町十七丁目
本町十八丁目
本町十九丁目
本町二十丁目
本町二十一丁目
本町二十二丁目
本町二十三丁目
本町二十四丁目
本町二十五丁目
本町二十六丁目
本町二十七丁目
本町二十八丁目
本町二十九丁目
本町三十丁目
本町三十一丁目
本町三十二丁目
本町三十三丁目
本町三十四丁目
本町三十五丁目
本町三十六丁目
本町三十七丁目
本町三十八丁目
本町三十九丁目
本町四十丁目
本町四十一丁目
本町四十二丁目
本町四十三丁目
本町四十四丁目
本町四十五丁目
本町四十六丁目
本町四十七丁目
本町四十八丁目
本町四十九丁目
本町五十丁目
本町五十一丁目
本町五十二丁目
本町五十三丁目
本町五十四丁目
本町五十五丁目
本町五十六丁目
本町五十七丁目
本町五十八丁目
本町五十九丁目
本町六十丁目
本町六十一丁目
本町六十二丁目
本町六十三丁目
本町六十四丁目
本町六十五丁目
本町六十六丁目
本町六十七丁目
本町六十八丁目
本町六十九丁目
本町七十丁目
本町七十一丁目
本町七十二丁目
本町七十三丁目
本町七十四丁目
本町七十五丁目
本町七十六丁目
本町七十七丁目
本町七十八丁目
本町七十九丁目
本町八十丁目
本町八十一丁目
本町八十二丁目
本町八十三丁目
本町八十四丁目
本町八十五丁目
本町八十六丁目
本町八十七丁目
本町八十八丁目
本町八十九丁目
本町九十丁目
本町九十一丁目
本町九十二丁目
本町九十三丁目
本町九十四丁目
本町九十五丁目
本町九十六丁目
本町九十七丁目
本町九十八丁目
本町九十九丁目
本町百丁目

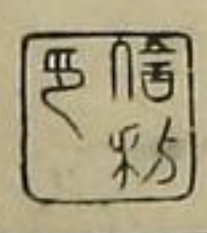
武藏林土畧圖



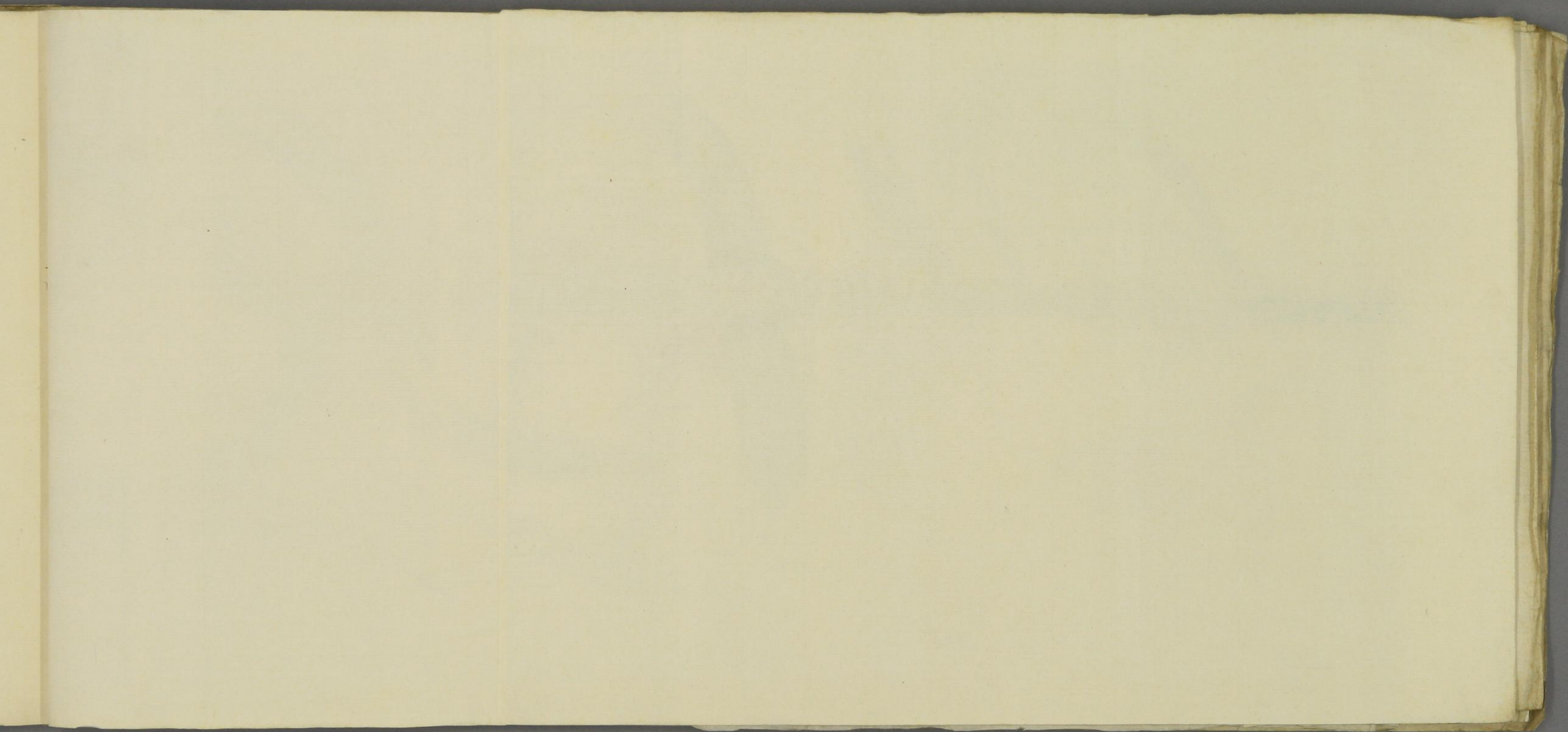


玉花聖之迹其如
 与溪法事跡者之天就
 從之微焉者迹跡焉
 也丹山人書之君子勉
 之予予之而陳一有月
 之力哉系心以學
 但之之綱川之趣
 是深所恥大方云

書却位前詩志



庚子年

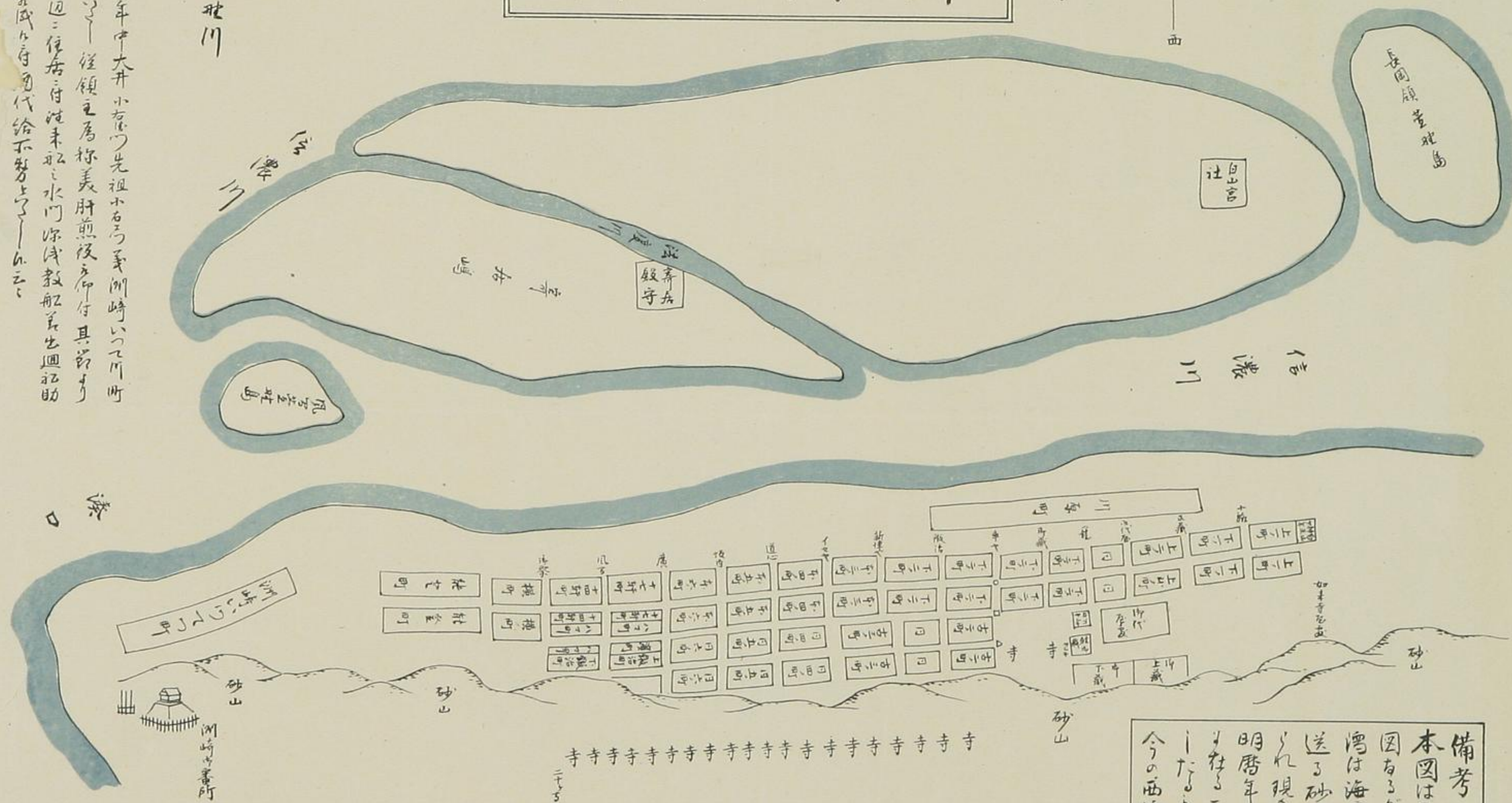


新瀨古圖



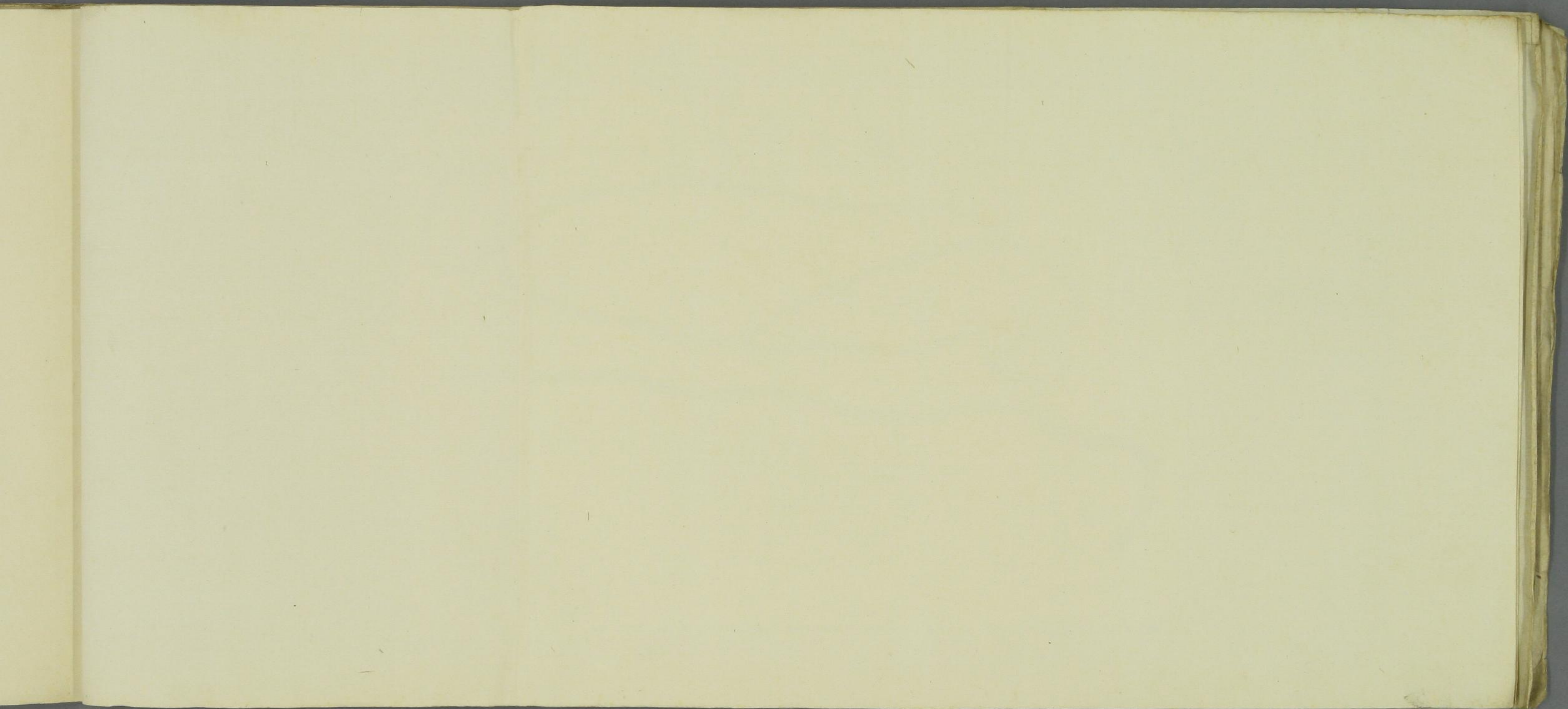
慶長年中大井小右衛門先祖小右衛門美濃時いつて川所
開墾し一徑領主爲村美野煎夜多御付具防り
川海邊に御居付候未だ水門御代教船長出廻り助
成上成り御代給不勞上り一云云

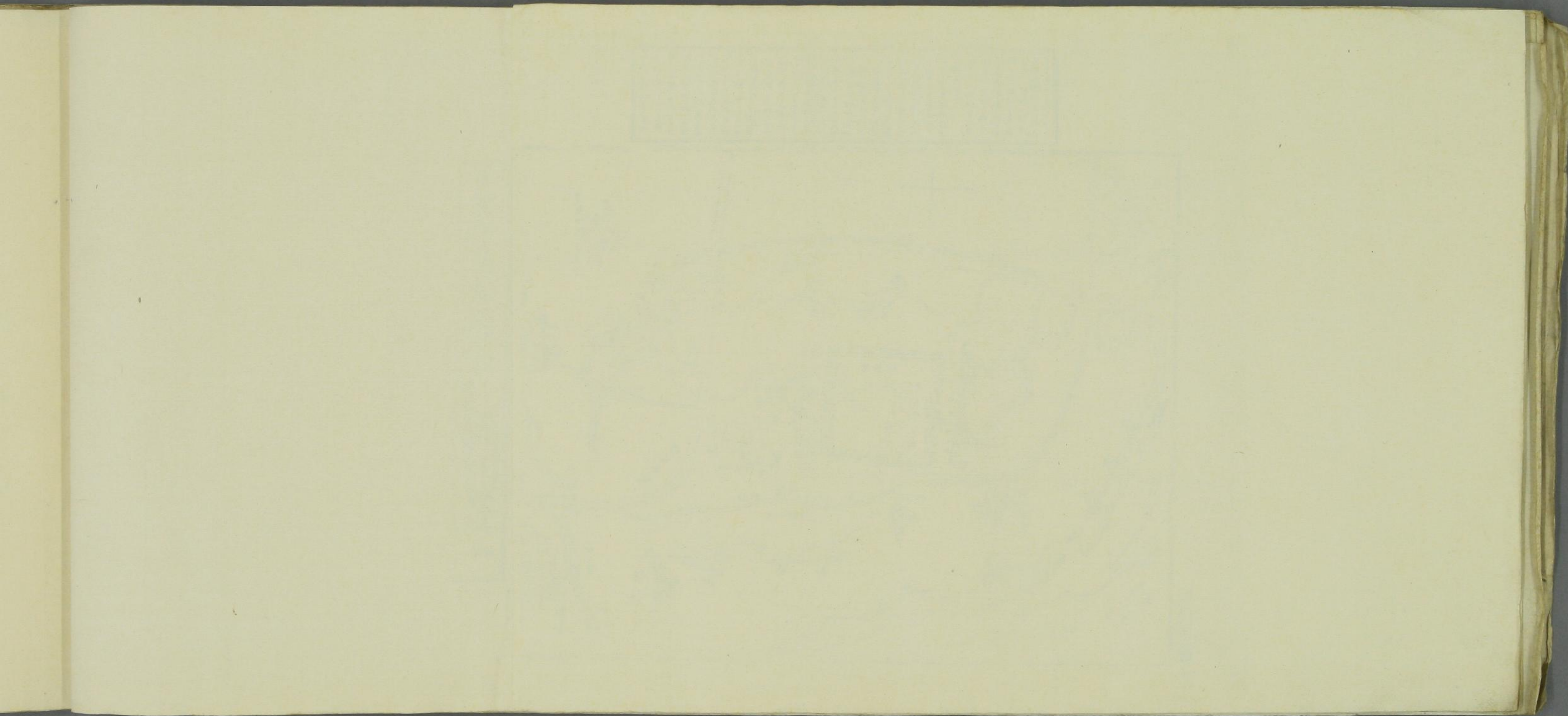
河質北川

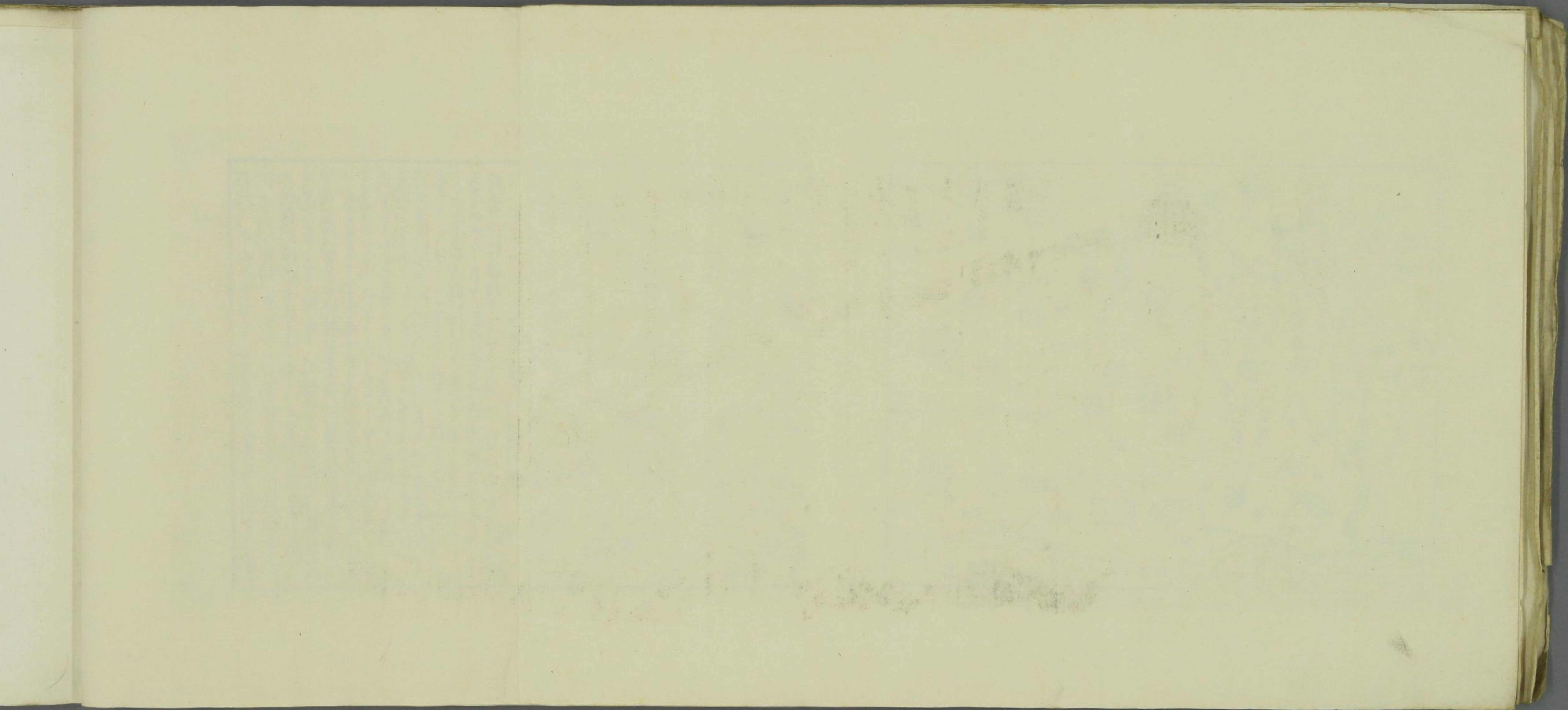


備考
本圖は最古の新瀨
因有る者時の新
瀨は海濱をり吹子
送り砂礫の高を埋え
り現今の新瀨を
明暦年間因の東方
に村二箇へ移徙
したるに法度川は
今の西堀の古名











焼場方角筋

明和元年 三月廿五日

八幡町 日本橋 焼場

焼場の北

焼場の南

焼場の西

焼場の東

焼場の北西

焼場の北東

焼場の南西

焼場の南東

焼場の西側

焼場の東側

焼場の北側

焼場の南側

焼場の西側

焼場の東側

焼場の北側

焼場の南側

焼場の西側

焼場の東側

焼場の北側

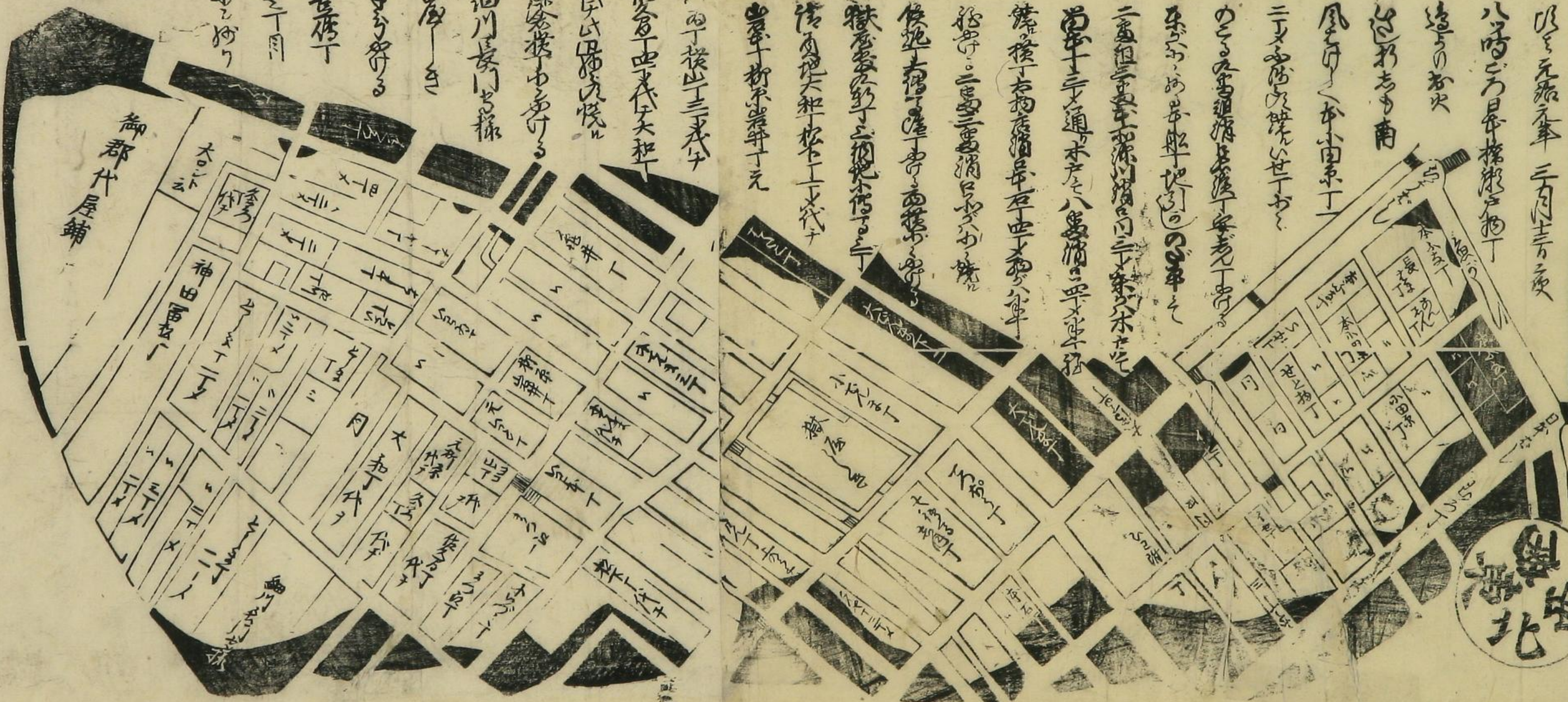
焼場の南側

焼場の西側

焼場の東側

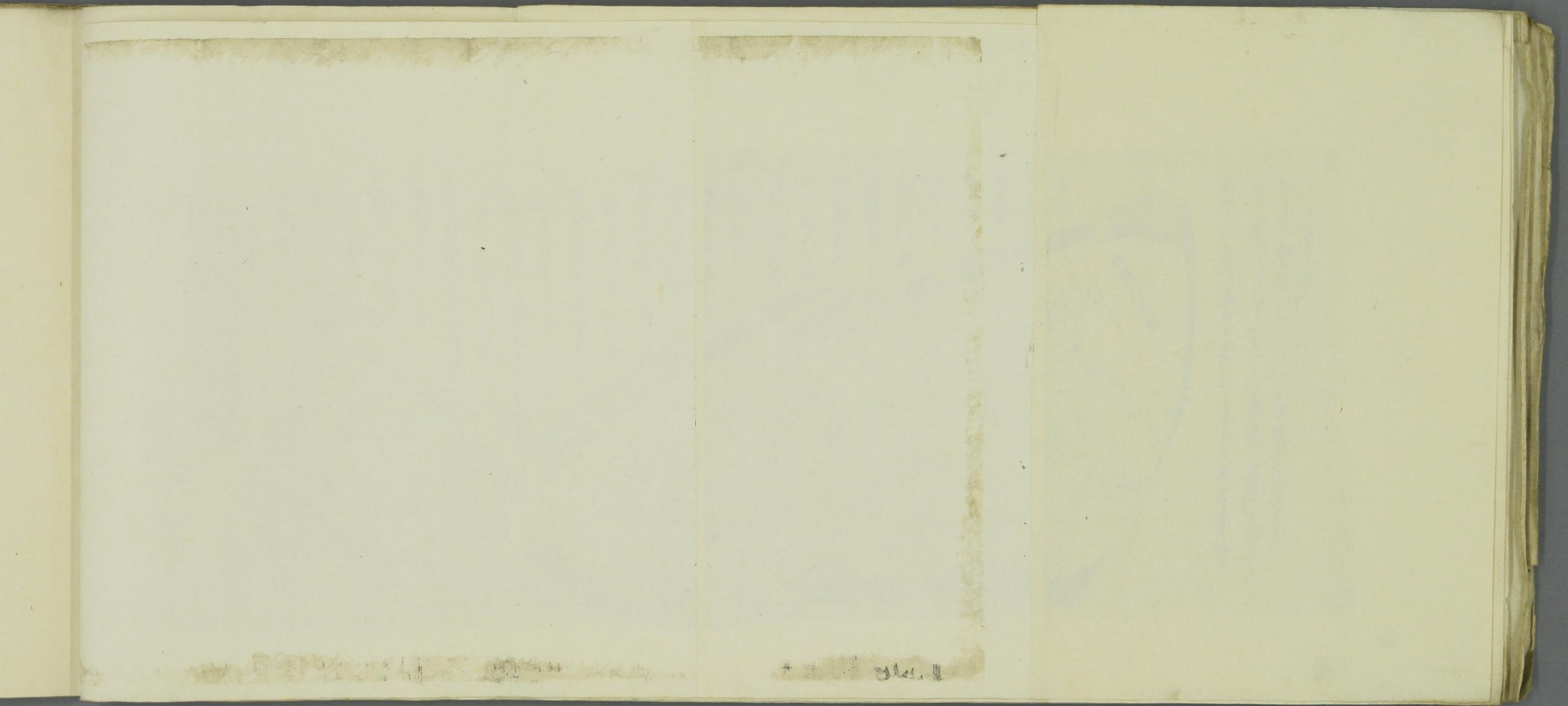
焼場の北側

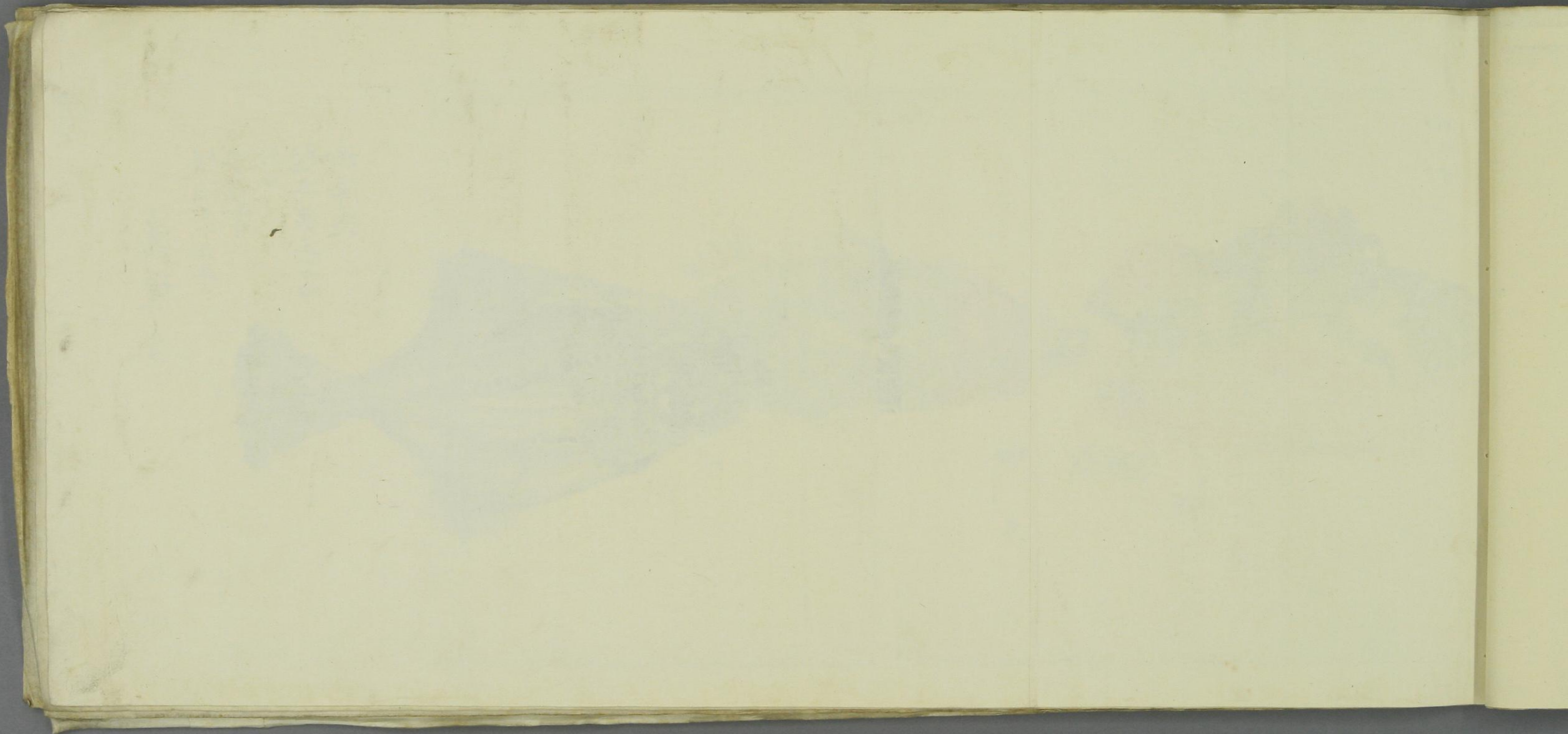
焼場の南側



同二又三又四又五又六又七又八又九又十又十一又十二又十三又十四又十五又十六又十七又十八又十九又二十又二十一又二十二又二十三又二十四又二十五又二十六又二十七又二十八又二十九又三十又三十一又三十二又三十三又三十四又三十五又三十六又三十七又三十八又三十九又四十又四十一又四十二又四十三又四十四又四十五又四十六又四十七又四十八又四十九又五十又五十一又五十二又五十三又五十四又五十五又五十六又五十七又五十八又五十九又六十又六十一又六十二又六十三又六十四又六十五又六十六又六十七又六十八又六十九又七十又七十一又七十二又七十三又七十四又七十五又七十六又七十七又七十八又七十九又八十又八十一又八十二又八十三又八十四又八十五又八十六又八十七又八十八又八十九又九十又九十一又九十二又九十三又九十四又九十五又九十六又九十七又九十八又九十九又百

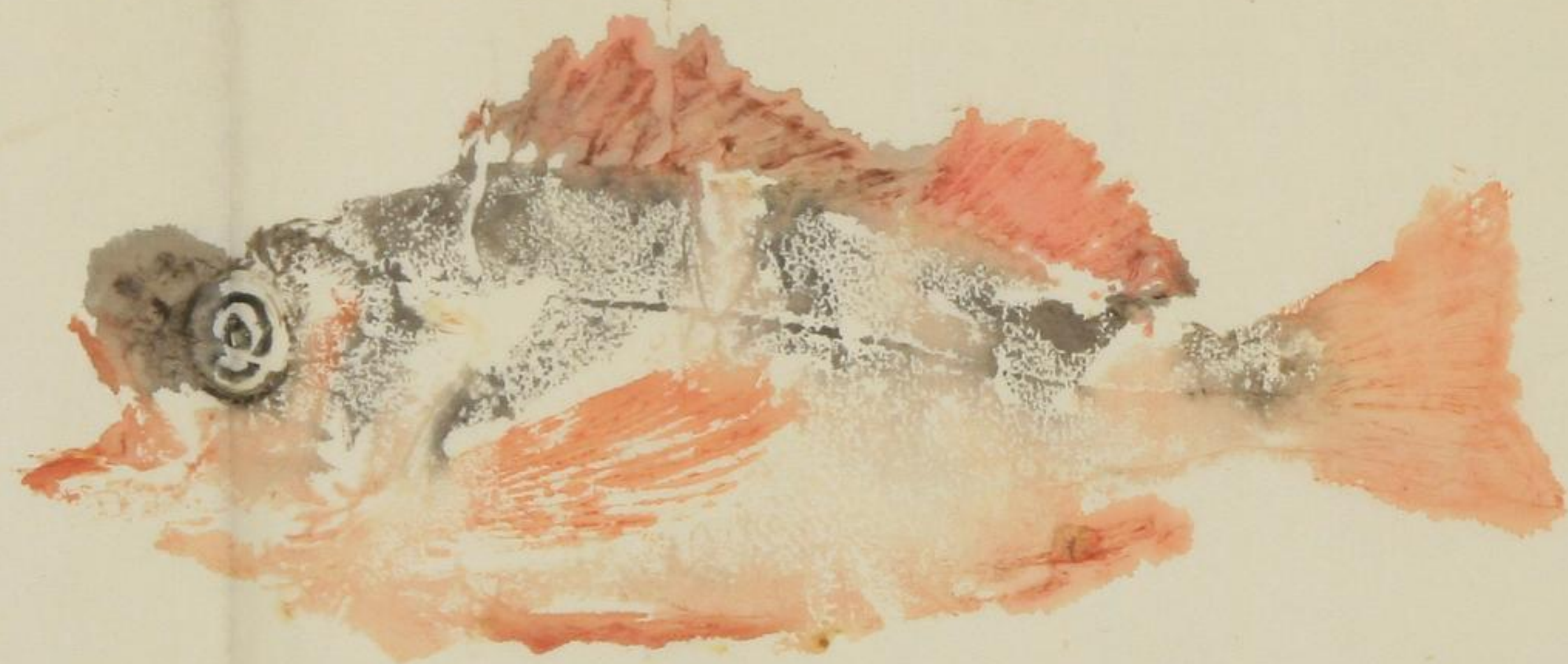








加
佐
古



明治三十九年
十二月三日
此日
聖主第五十四
御降誕

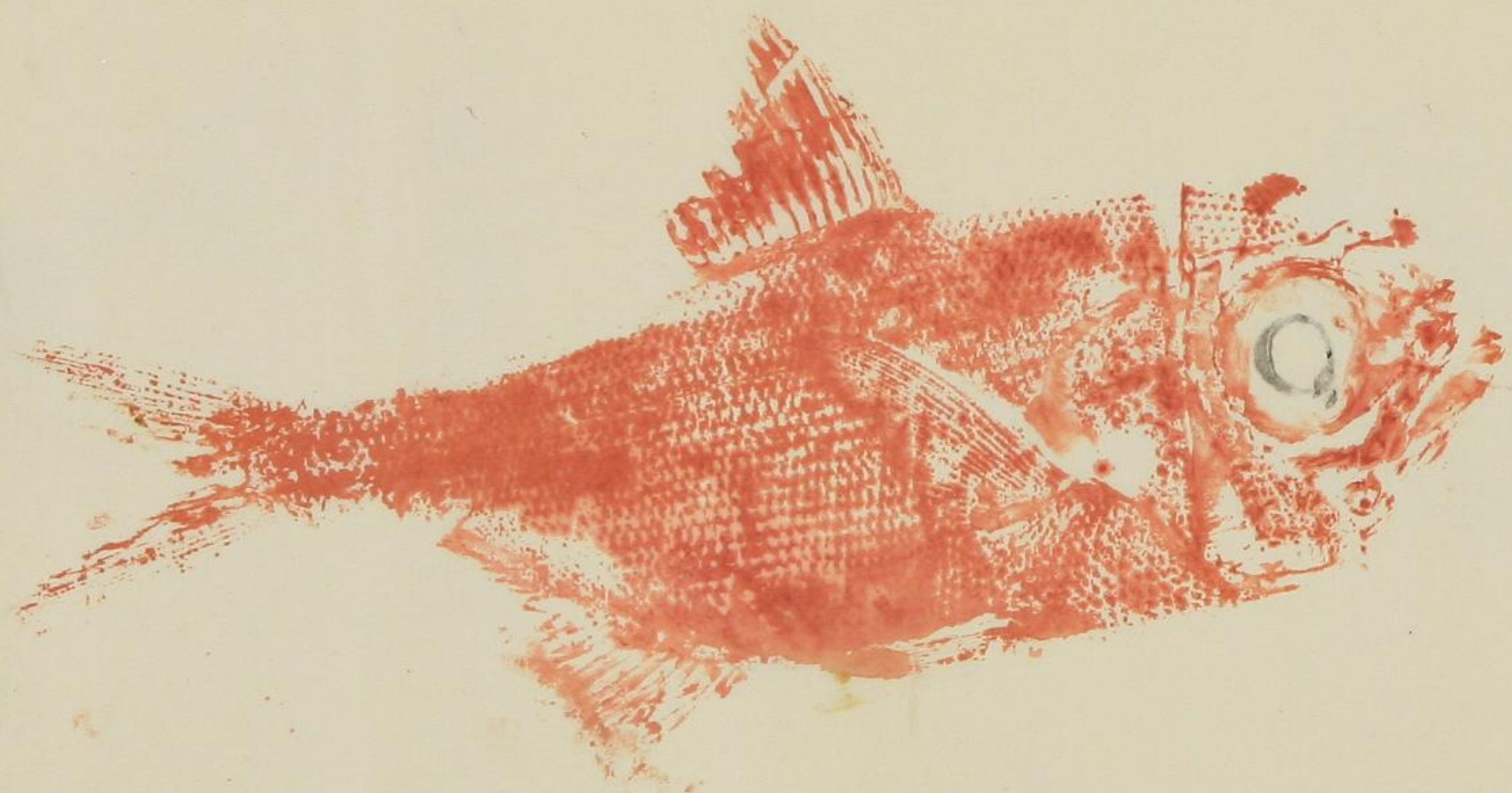
嘉禮背







改
東魚
宜月鯛



海
たなご

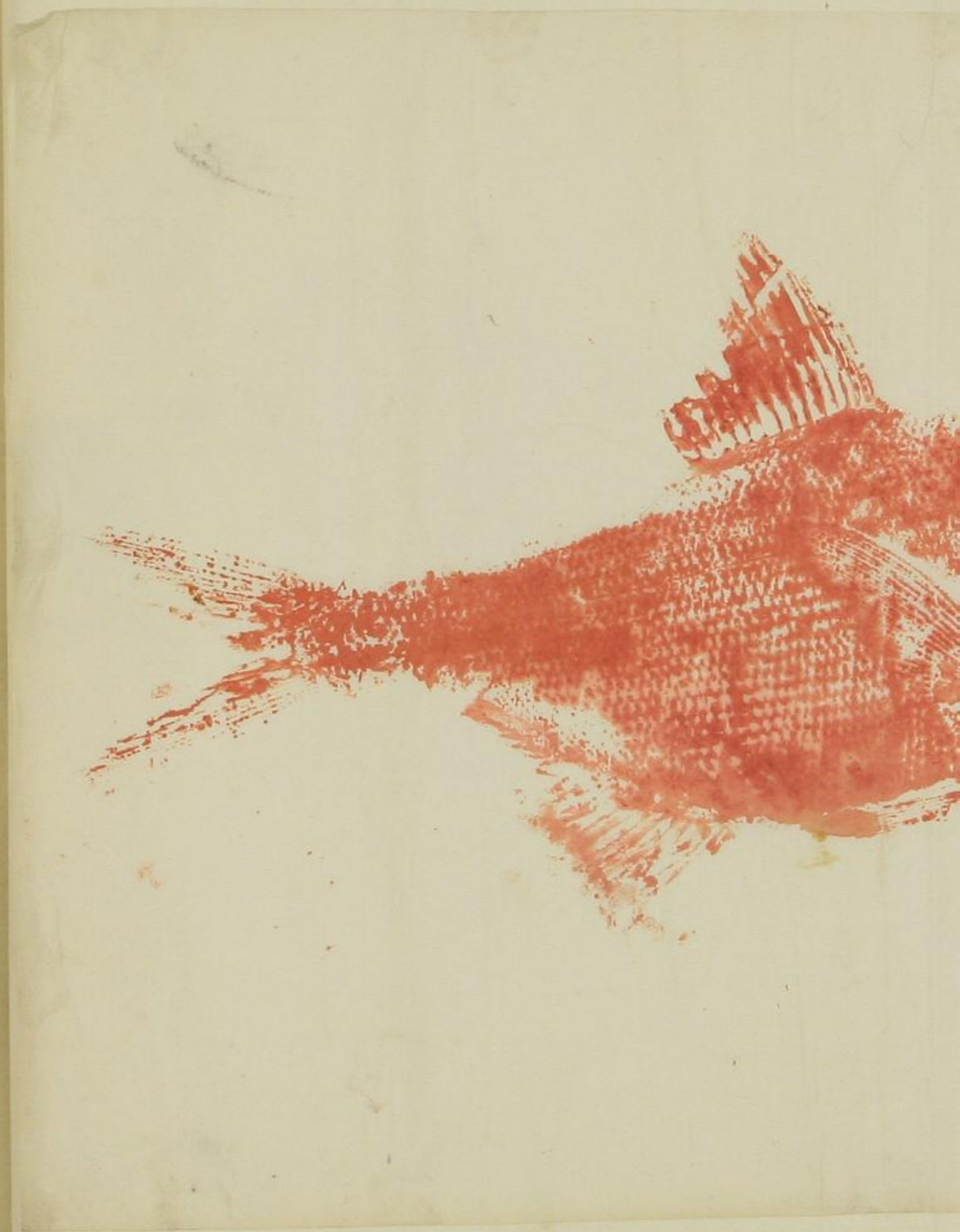


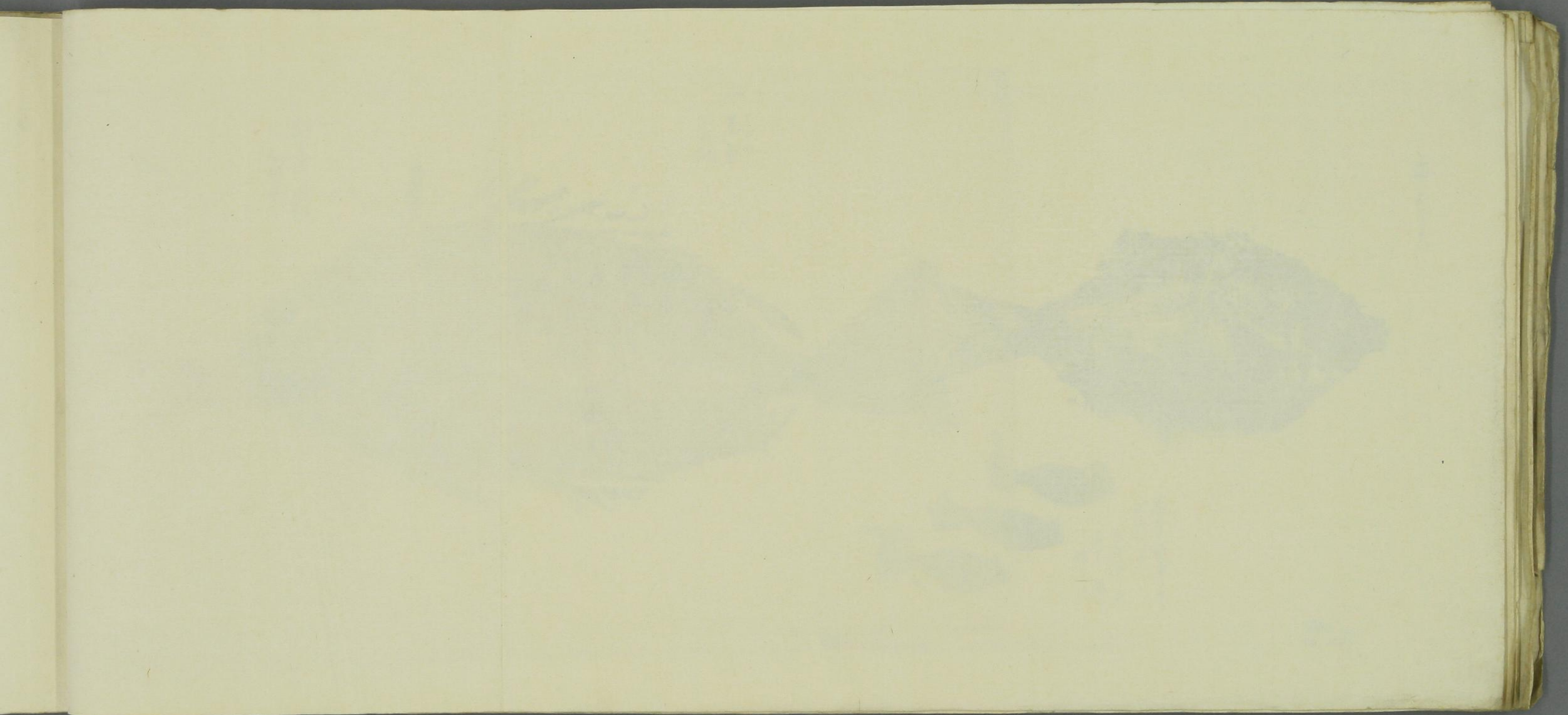
本末腹中より
出じし子
此東代魚下
母り 後下
三鱗化以

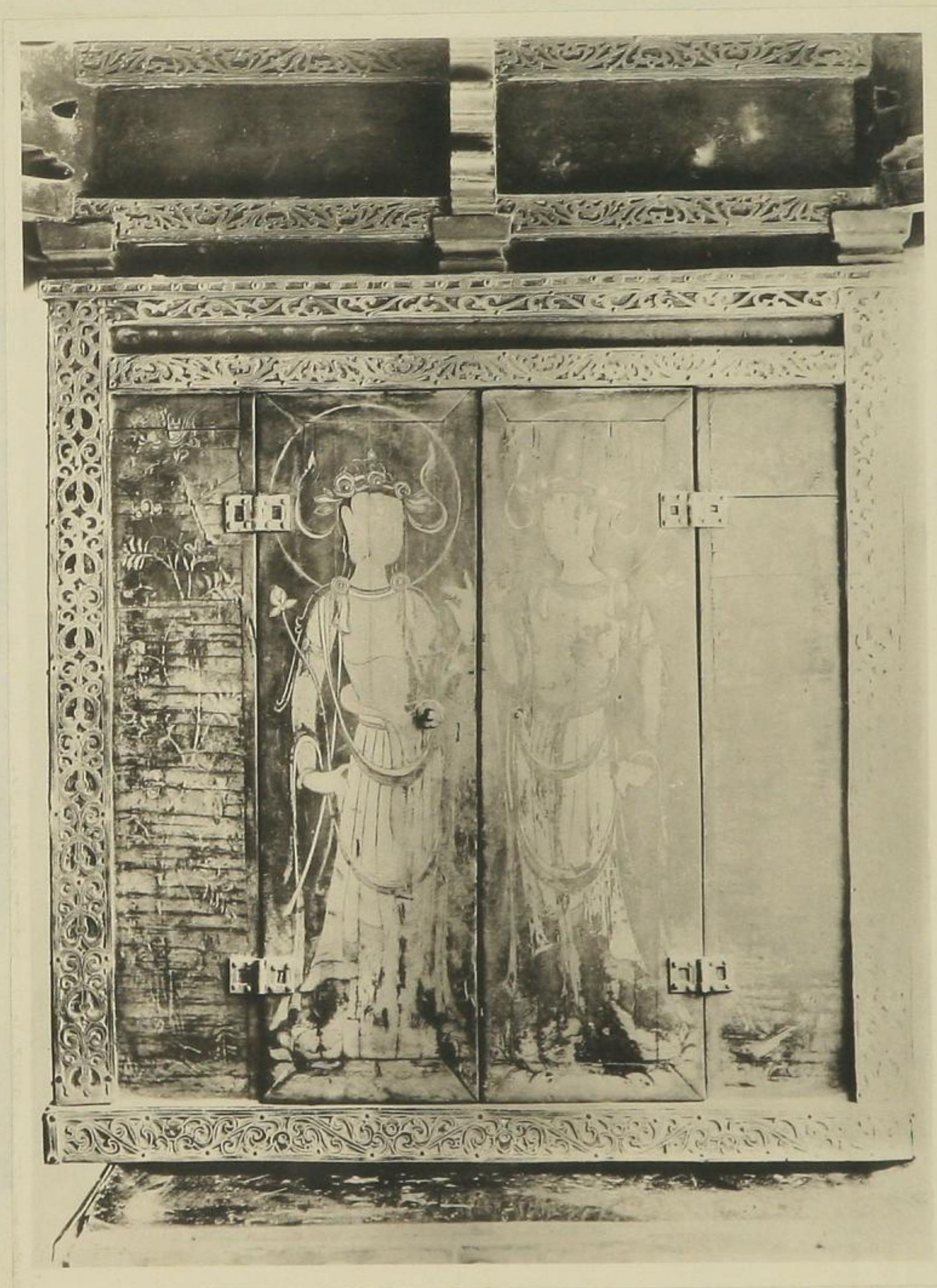
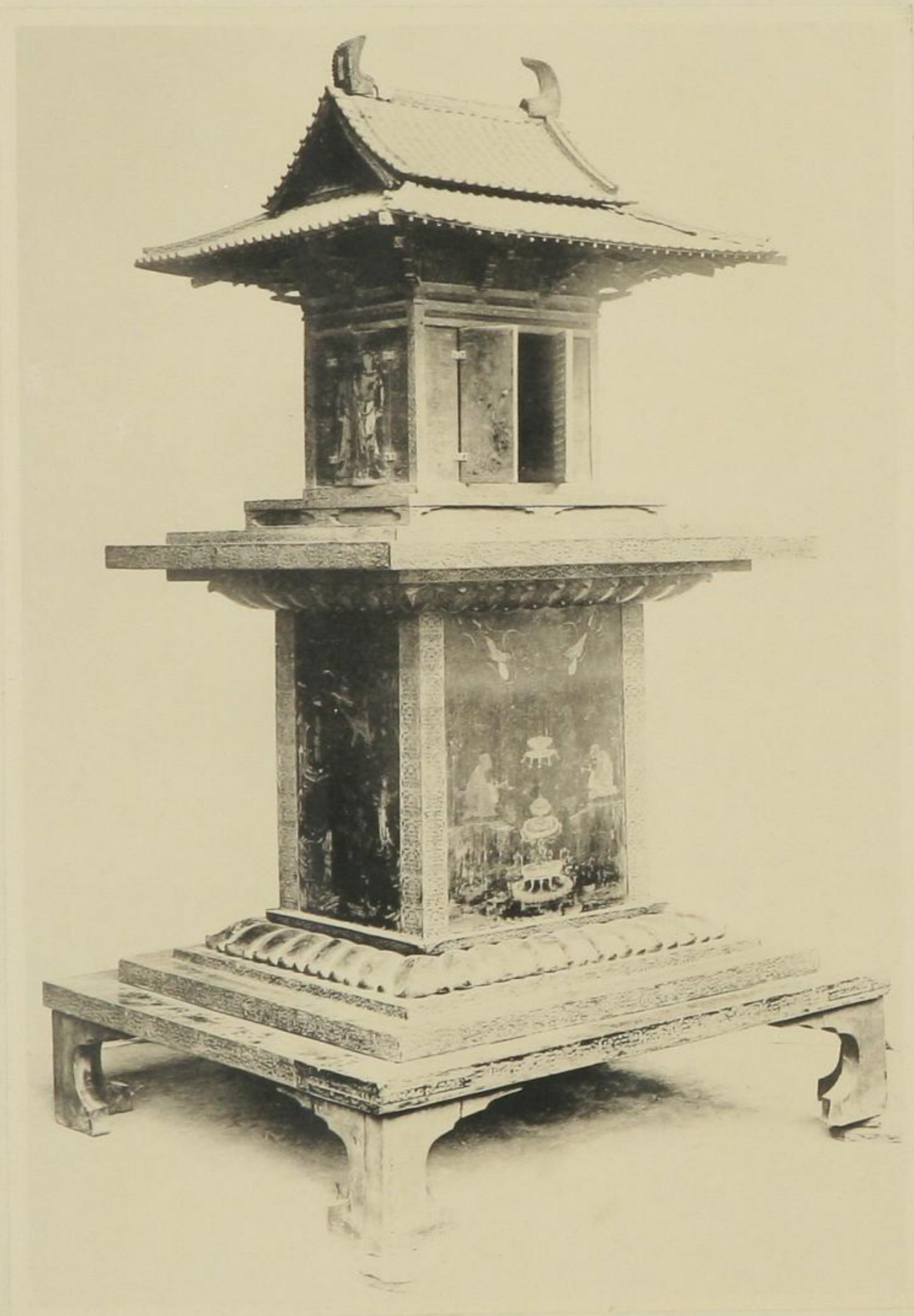




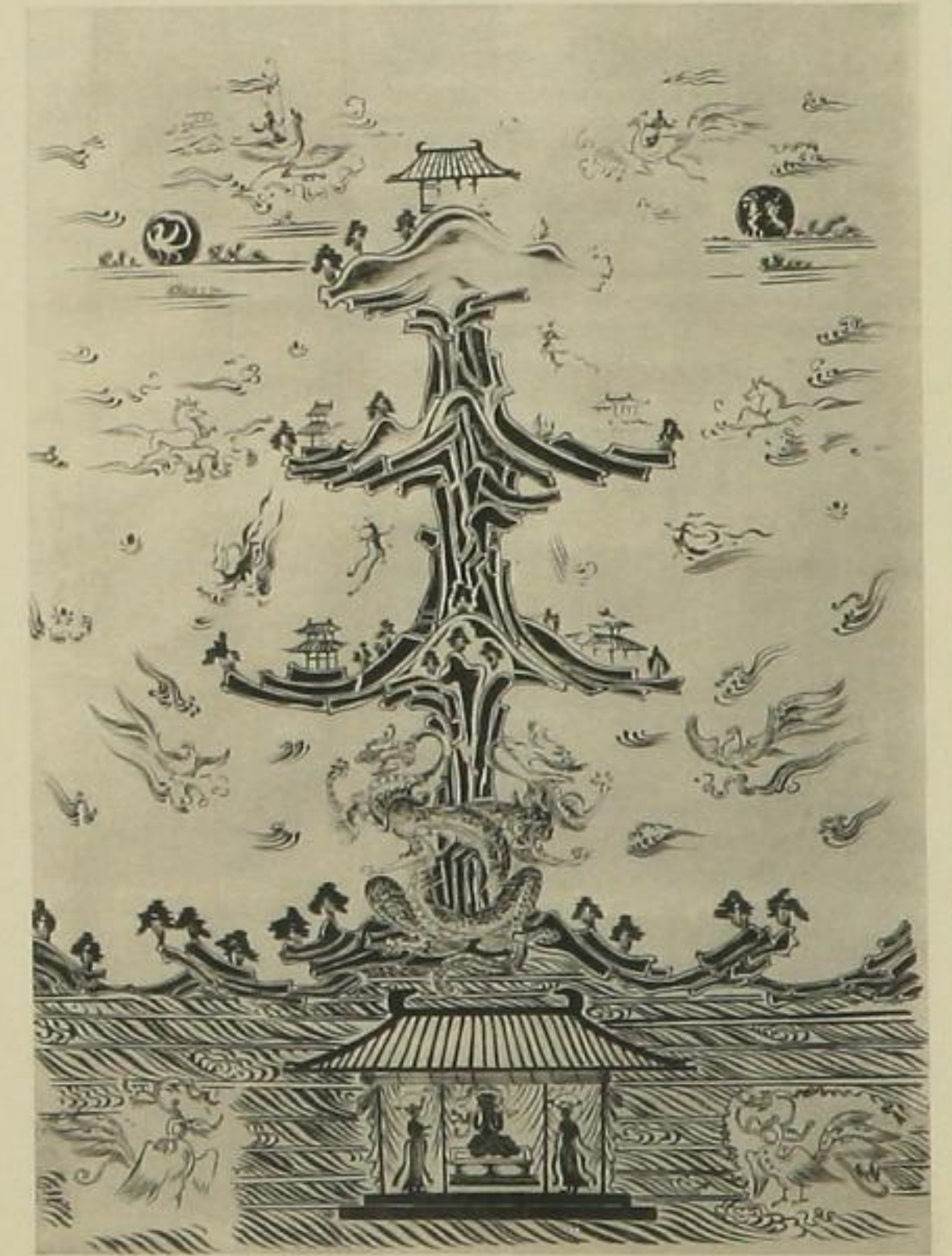
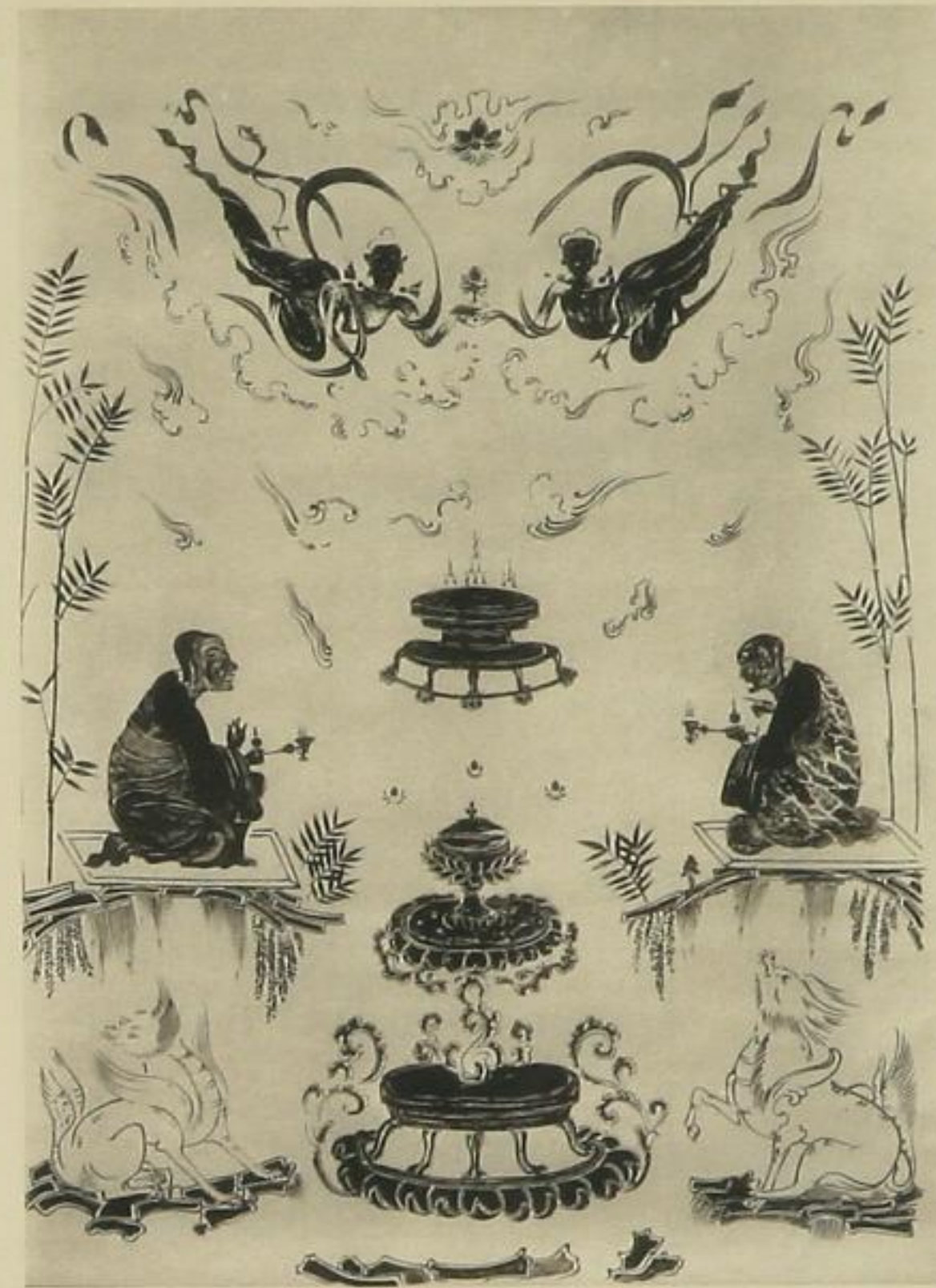
安伊吾
淡黑色無鱗







玉蟲厨子圖





星野文良筆
浴恩園千秋
館之圖

千秋館

蓬萊樓

樂亭

柳堂

千竹岩橋

瑞雨縮寫



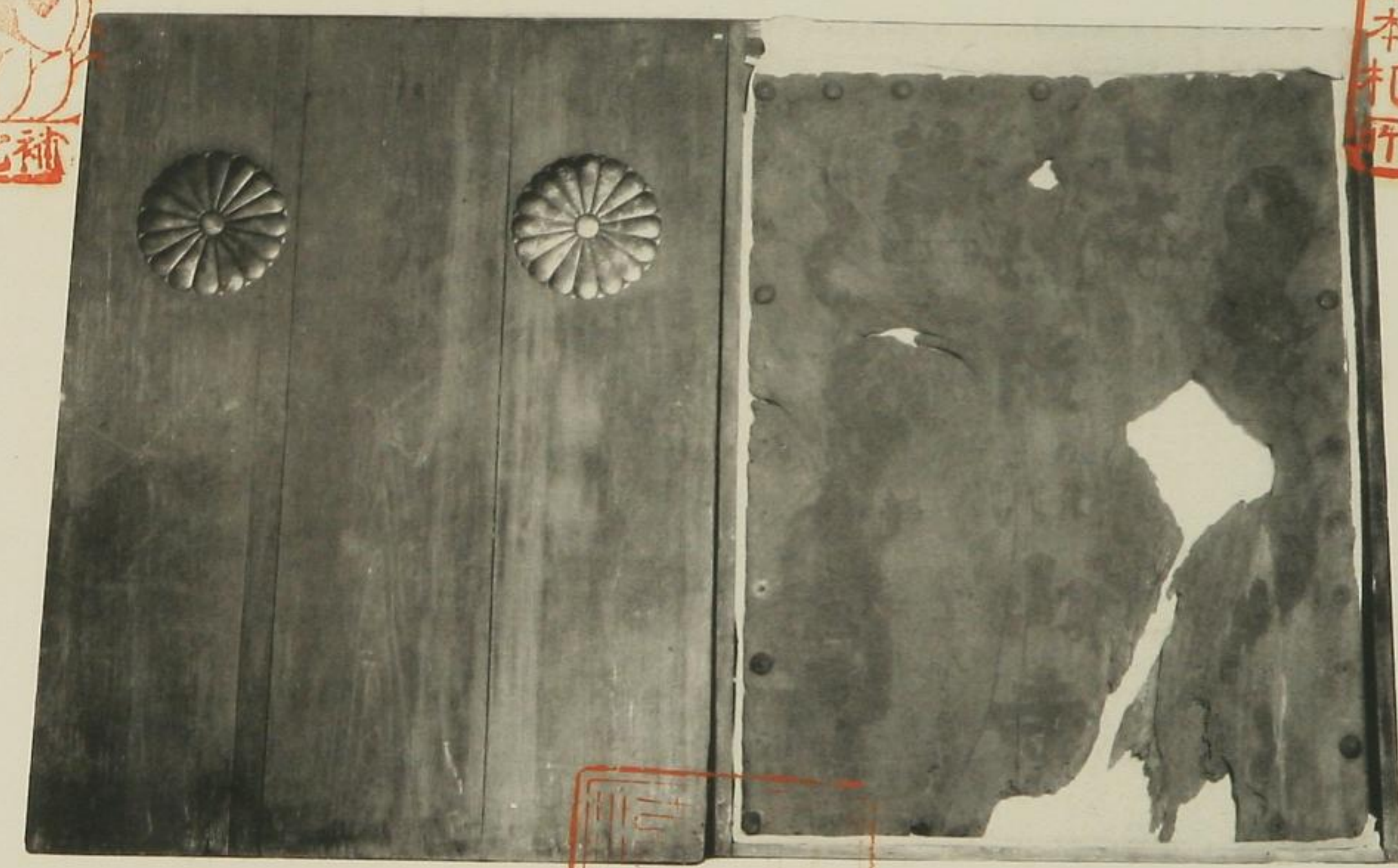
文武天皇
日本第一
靈場
西國根本



山崎陀補

山崎陀補

山崎陀補



文武天皇
日本第一
靈場
西國根本

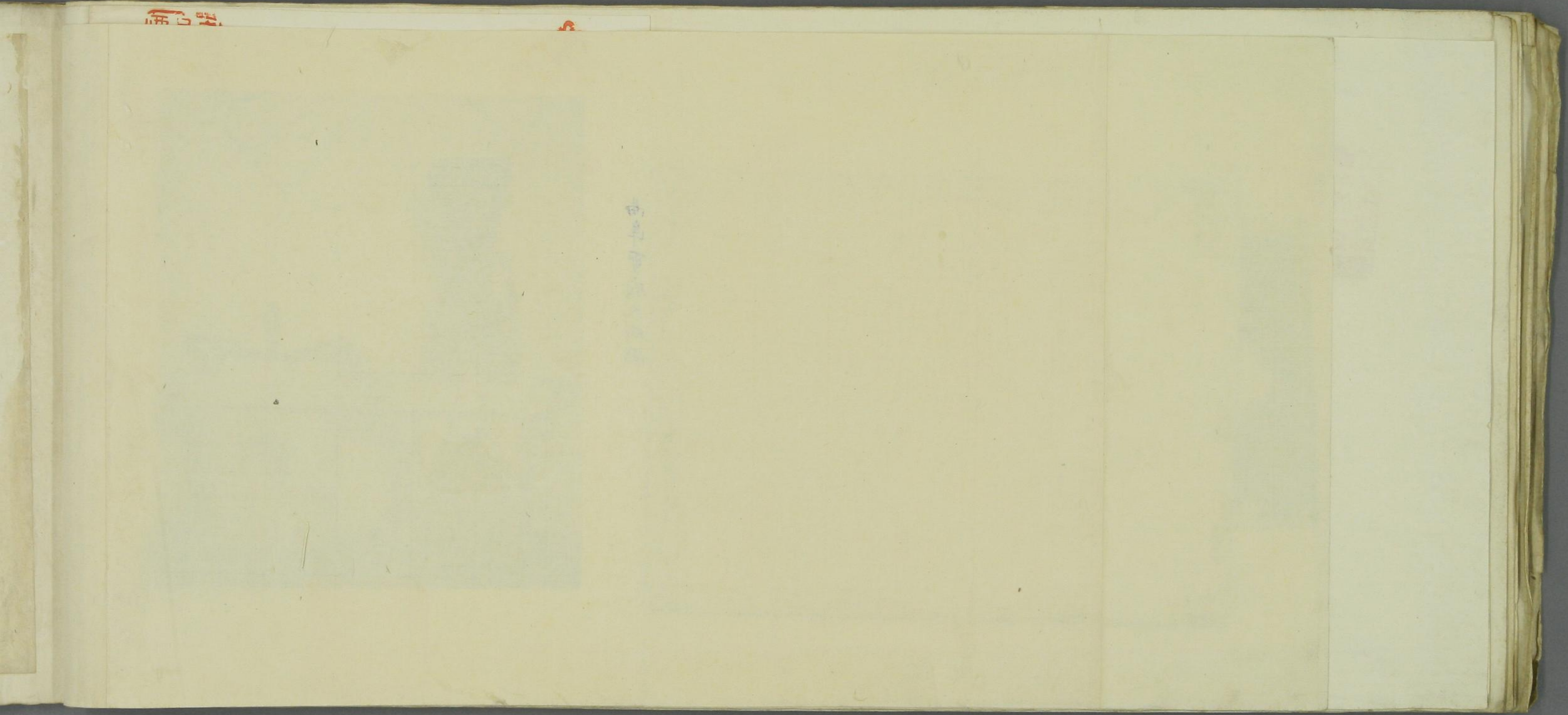
山崎陀補

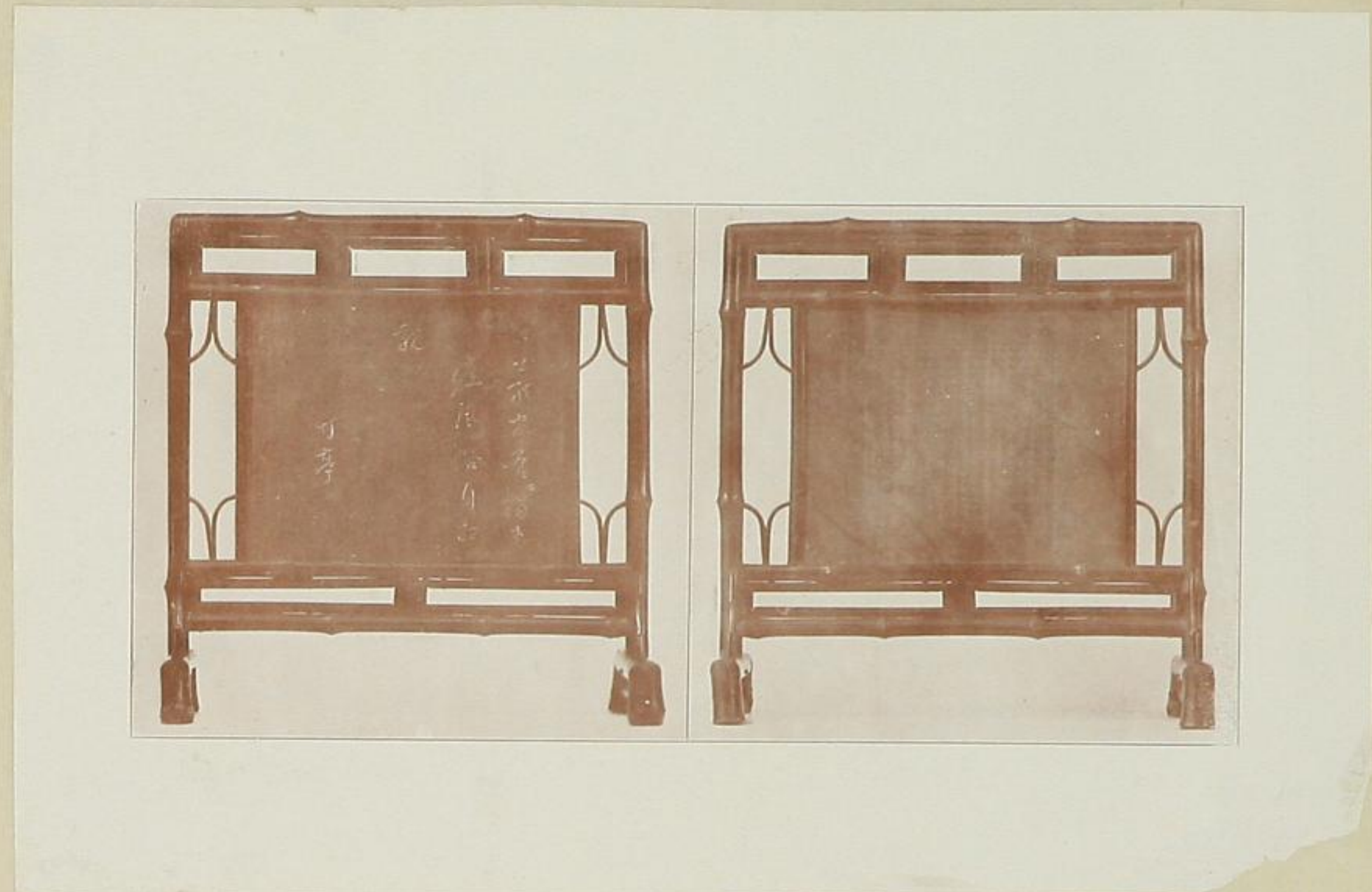
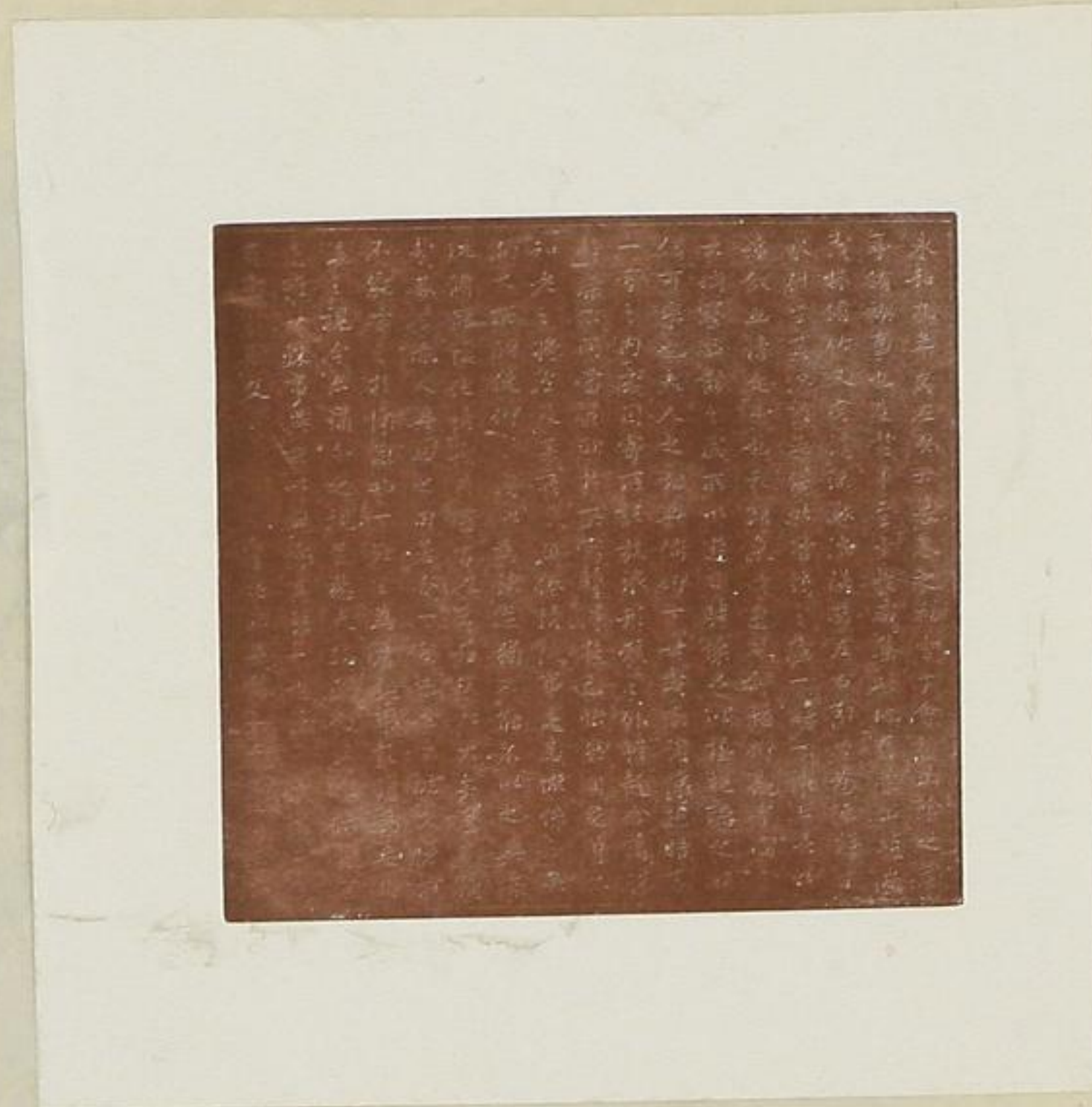




曲阜聖廟大成殿







と號す通稱登井屋吉右衛門後ち太吉郎と改
文學を好み津島彭水に従ひ物産の學を研究
し大に得る所あり又好事にして書畫古玩の
收藏に富み其名最高し書を能くす浪華堀
江の人享和二年正月廿五日卒す歳六十七

兼葭堂主人姓は木郡名は孔恭字は世慮其齋
兼葭堂選愛全隱遠莊の什たり

明人李憲義民甫書并鐫

小楷蘭亭記

兼葭堂主人

○兼葭堂遺物、祁陽石硯屏

石版、一尺七分、高、一尺一寸二分、

支那式、虎斑竹製、裝入石版、粘版者

△現存所

明人李憲義民蘭亭記小字鐫刻

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人

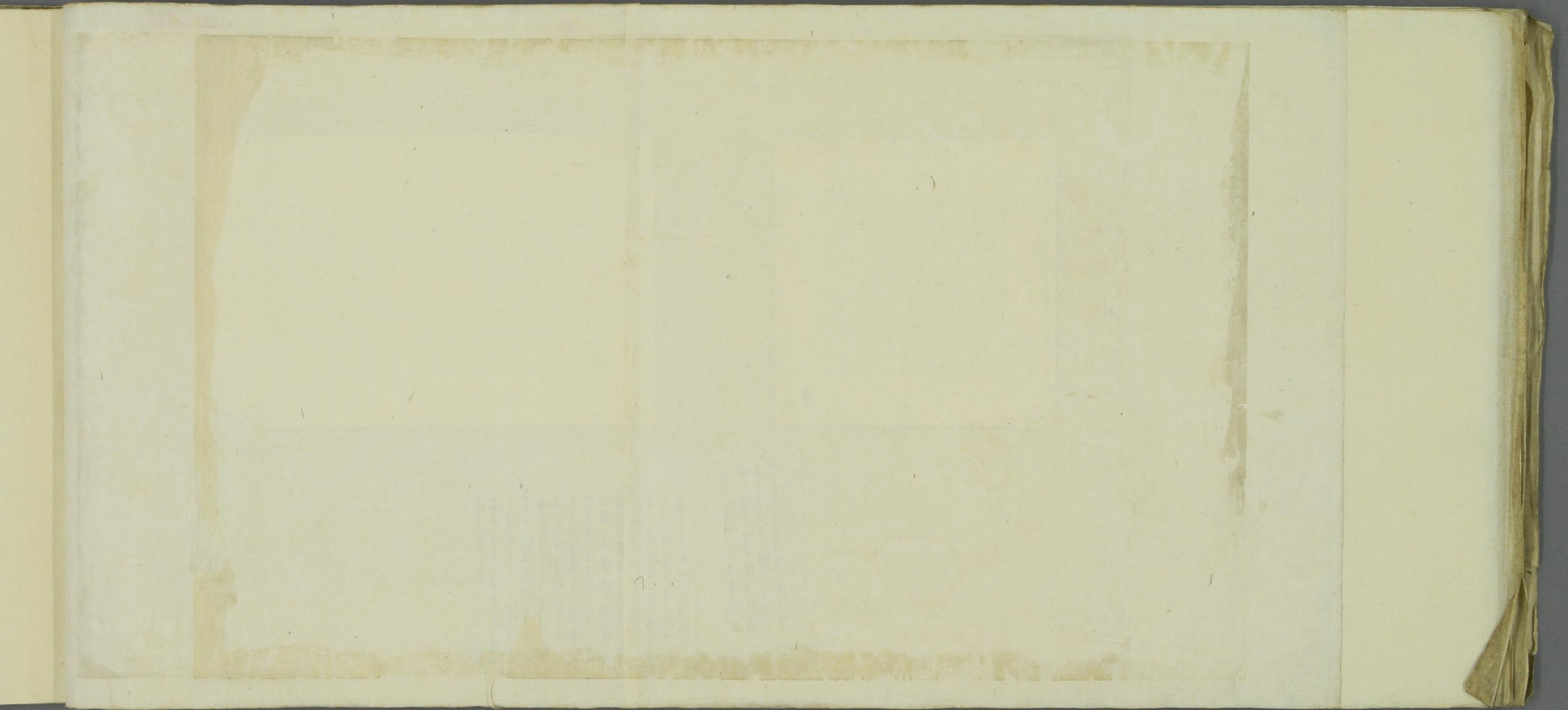
兼葭堂主人

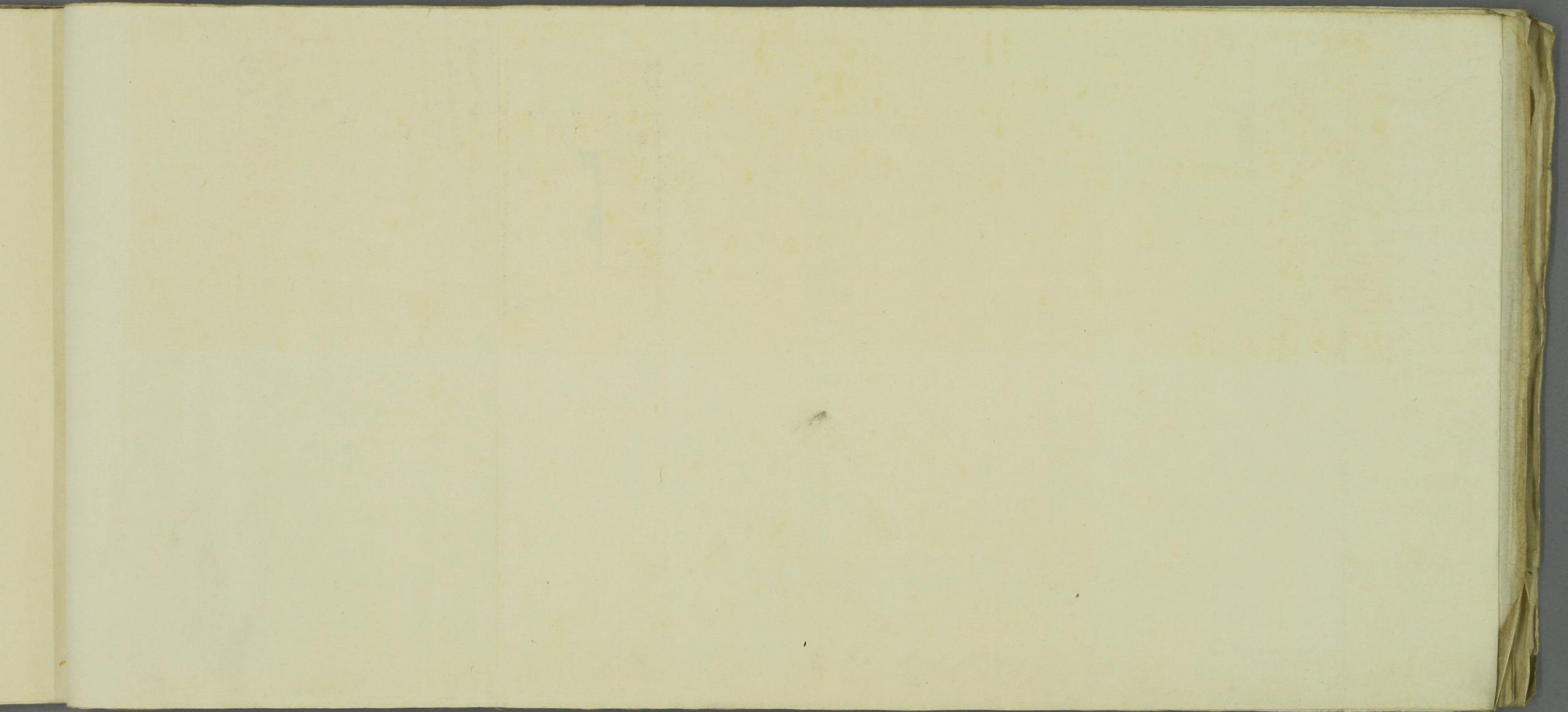
兼葭堂主人

兼葭堂主人

兼葭堂主人









Handwritten Japanese text in cursive style, likely a letter or a page from a diary. The text is dense and covers most of the page area.

○安政五年九月十三日井伊直弼君より養母權鏡院夫人に贈る書

樽陶敷天氣に御坐候ごころ、ますます御機けんよく、恐悦そんじ上候、左様御坐候得は、来る十八日十九日兩日、内祝能申付候間、先づ十八日御出之義申上候か、もし兩日共御覽も遊され度思召候は、兩日御出にてもよろしく、いつれ仕廻は夜に入申へく、左候得は、よく日も早く御坐候間、其御住居へ御歸りに成候而は御面倒之御義、一かう御一宿遊され候て、御覽遊され候方、御都合もよろしくごそんじ上候間、此段伺申候、もちろん私方にては指問も御坐なく、用人へも一寸咄候處何も御子細なくよし申居候、いつれ御不自由は申までもなく、恐入候次第かへつて御迷惑にも思召候は、いいて申上候には御坐なく、御遠慮なく思召次第に願上候番組御覽に入候、此二日か日に御坐候三輪神遊、腹鼓は随分めつらしきものに候まゝ、かたく申上候、ごご御考、右之通り二日つゝき御出被下候義に候は、只今より御泊懸けご申も、何か仰山にも聞へ候間、其御つもりさへ御坐候へは、先初日はかりこいたし置俄に御居つゝけに御覽遊され候様に成候てもよろしく、何れにも思召相伺申上候、十五日に老女を一寸さし出し候まゝ、其時分に成さも御取きはめ仰下しおかれ候様願上候、猶又此度は俊操院殿重麻呂はかりに御坐候、池端六本木も申上度候得さも、此度は表奥ごも何分ござつ致候まゝ、残念ながら又々別に申上候ご存居候、此段も御心得まてに申上置候、此帖た、今もらい候まゝ、めつらしからす候得共、御覽に入候めて度かしく、

後名月

返く、不同之季候に候、御厭遊され候様そんじ上候、今晚も月はごふかむつかしき事ご存候かしく、

御母上様

かもん頭

- ▲權鏡院ハ直弼君ノ養父直亮君ノ室ニシテ與板藩主井伊直明君ノ女ナリ當時中屋敷ニ住ム
- ▲俊操院ハ直弼君ノ兄直元君直亮君ノ爲メニ養ハレテ世子トナリ父ニ先チテ卒ス良性院ト諡スノ室ニシテ叔父直致君ノ女ナリ
- ▲重麻呂ハ今ノ子爵井伊直安君ナリ
- ▲池端ハ直弼君ノ姉高田藩主榊原政義君室ヲサス榊原氏ノ中屋敷上野不忍池ノ附近ニ在リ故ニシカイフ
- ▲六本木ハ直弼君ノ姉延岡藩主内藤政順君室ヲサス内藤氏ノ中屋敷麻布六本木ニ在リ故ニシカイフ



成候てもよろしく、何れにも思召相伺申上候、十
 五日に老女を一寸さし出し候まゝ、其時分に成
 こも御取きはめ仰下しおかれ候様願上候、猶又
 此度は俊操院殿重麻呂はかりに御坐候池端六
 本木も申上度候得とも、此度は表奥とも何分こ
 んさつ致候まゝ、残念なから又々別に申上候こ
 存居候、此段も御心得まてに申上置候、此帖たゞ
 今もらい候まゝ、めつらしからず候得共、御覽に
 入候めて度かしこ、
 後名月
 返く、不同之季候に候御厭遊され候様そん
 し上候、今晚も月はさふかむつかしき事存
 候かしこ、
 御母上様
 御もこへ
 かもん頭

▲ 耀鏡院ハ直弼君ノ養父直亮君ノ室ニシテ與板藩主井伊
 直明君ノ女ナリ當時中屋敷ニ住ム
 ▲ 俊操院ハ直弼君ノ兄直元君兄直亮君ノ爲メニ養ハレテ
 世子トナリ父ニ先チテ辛ス良性院ト置テノ室ニシテ叔
 父直致君ノ女ナリ
 ▲ 重麻呂ハ今ノ子爵井伊直安君ナリ
 ▲ 池端ハ直弼君ノ姉高田藩主榊原政君室ヲナス榊原氏
 ノ中屋敷上野不忍池ノ附近ニ在リ故ニシカイフ
 ▲ 六本木ハ直弼君ノ姉延岡藩主内藤政順君室ヲナス内藤
 氏ノ中屋敷麻布六本木ニ在リ故ニシカイフ

成候てもよろしく、何れにも思召相伺申上候、十
 五日に老女を一寸さし出し候まゝ、其時分に成
 こも御取きはめ仰下しおかれ候様願上候、猶又
 此度は俊操院殿重麻呂はかりに御坐候池端六
 本木も申上度候得とも、此度は表奥とも何分こ
 んさつ致候まゝ、残念なから又々別に申上候こ
 存居候、此段も御心得まてに申上置候、此帖たゞ
 今もらい候まゝ、めつらしからず候得共、御覽に
 入候めて度かしこ、
 後名月
 返く、不同之季候に候御厭遊され候様そん
 し上候、今晚も月はさふかむつかしき事存
 候かしこ、
 御母上様
 御もこへ
 かもん頭

成候てもよろしく、何れにも思召相伺申上候、十
 五日に老女を一寸さし出し候まゝ、其時分に成
 こも御取きはめ仰下しおかれ候様願上候、猶又
 此度は俊操院殿重麻呂はかりに御坐候池端六
 本木も申上度候得とも、此度は表奥とも何分こ
 んさつ致候まゝ、残念なから又々別に申上候こ
 存居候、此段も御心得まてに申上置候、此帖たゞ
 今もらい候まゝ、めつらしからず候得共、御覽に
 入候めて度かしこ、
 後名月
 返く、不同之季候に候御厭遊され候様そん
 し上候、今晚も月はさふかむつかしき事存
 候かしこ、
 御母上様
 御もこへ
 かもん頭



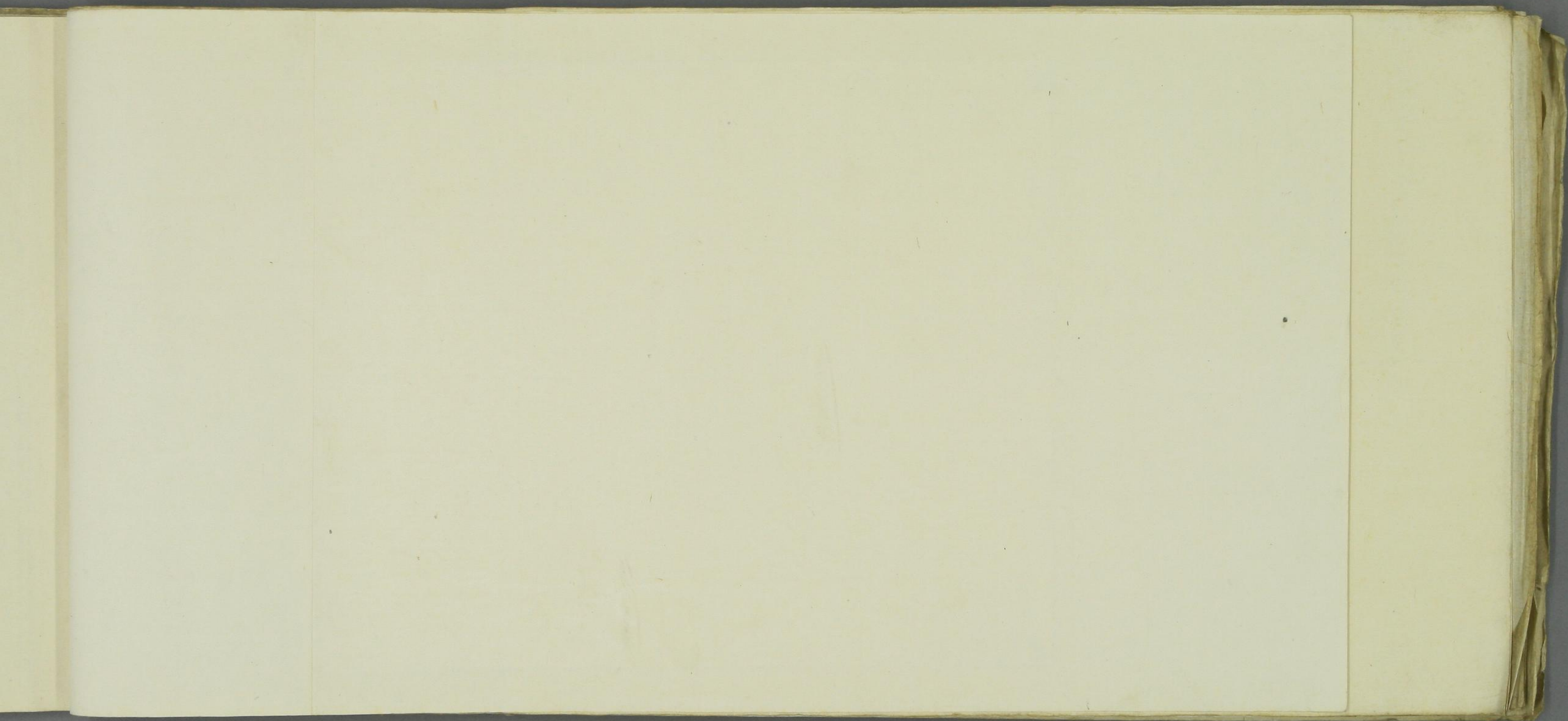
六宗開發竟異
見復返那震日
時緣起三周法
海樣

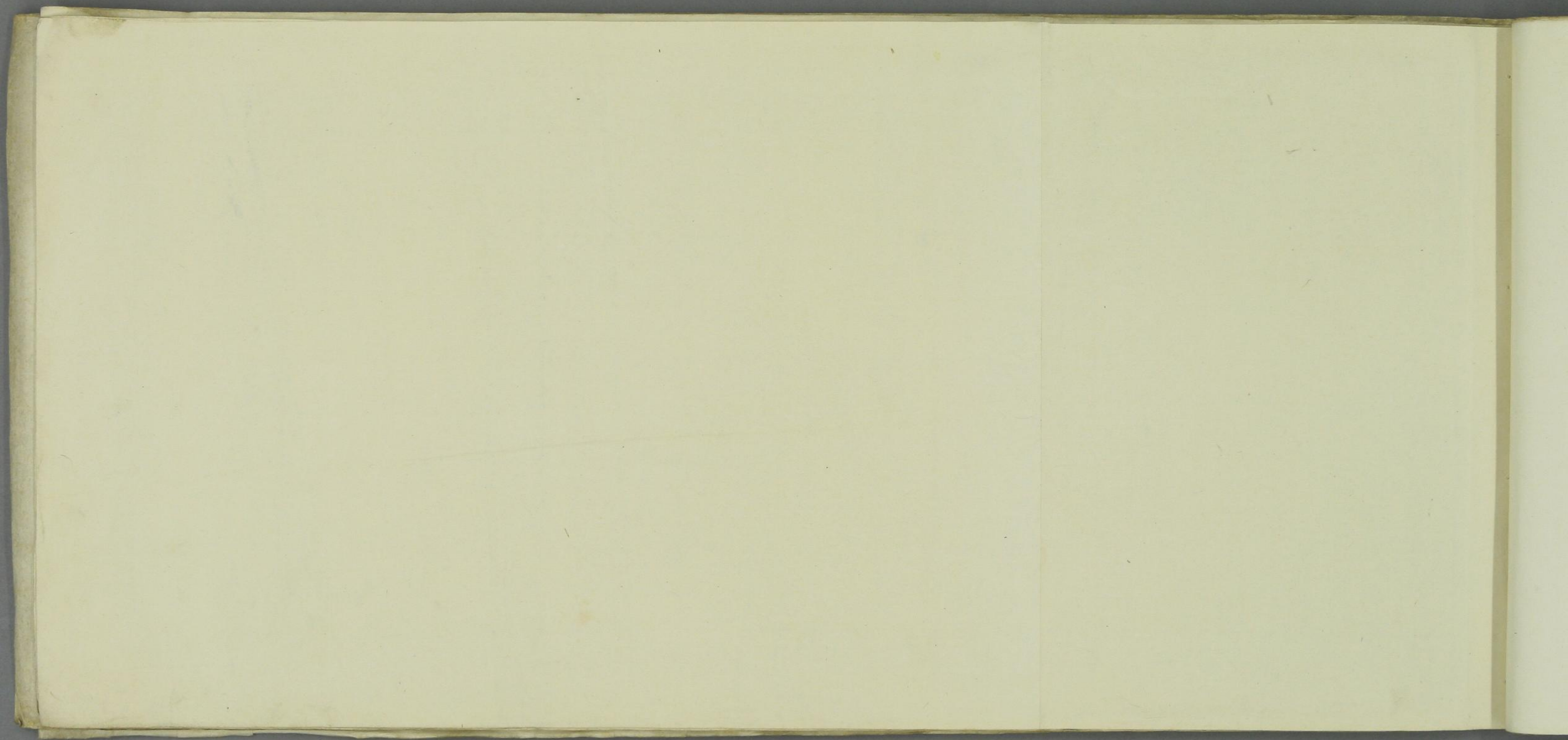
本庵
謹

謹
井
温
恭
鳴

老
字







羲之頓首喪亂之極
先墓再離荼毒追
惟酷甚痛兼撲絕
痛費心肝痛當
亦以雖即稍復未
毒既衣毒益深
亦以信紙復
何言羲之頓首

二謝面未比面遲詠良不
靜美之矣
想部兒甚佳前書者善
心道遂家
右邊

待示多之
吾之亦一
不似觸霧
散之



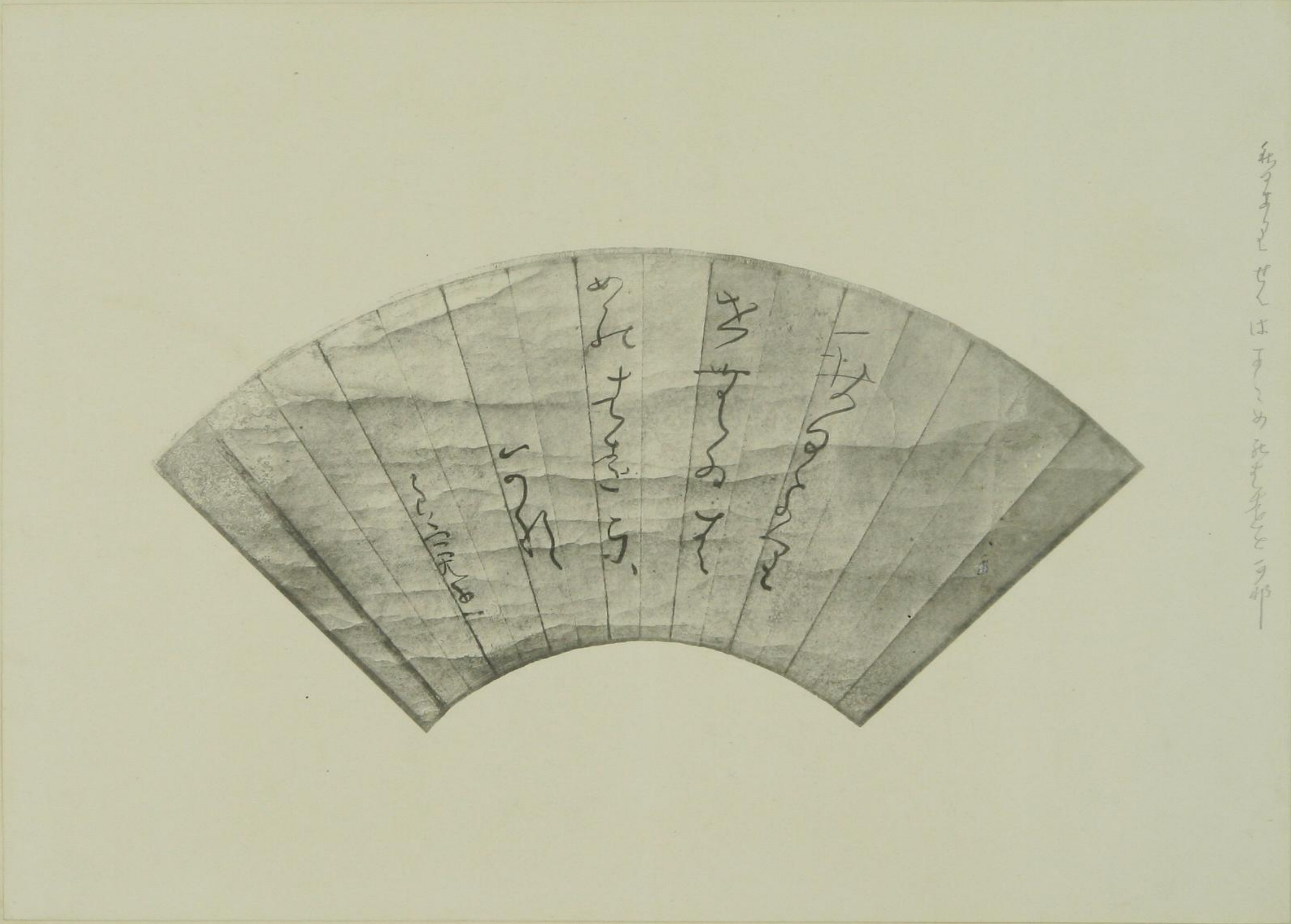
留田正之氏藏九月十七日帖

類有衣福也擇切
割不能自勝去至
以少之至增威



九月十七日美之報且用
孔侍中信書志必至不
有領軍疾後仍
夏子慈不能治申忘心
故自速取消息美之
歌





Handwritten text in Arabic script, oriented vertically on the right side of the page.

Handwritten text in Arabic script on a fan-shaped piece of paper, oriented vertically.



櫻 艸 の 句

竪 三 尺 五 寸 八 分
横 九 寸 一 分

一茶遺墨中斯の如く大字に書したるは稀に見る處にして書も晩年近く筆力の酒脱最も歎ぶべし
願ふに此句は「我國はくさもさくらを咲にけり」の未だ完璧ならざりし已前の作なるべき歎彼の

まきしまのやまごころを人とは

本居宜長

あさひに句ふやまさくらはな

の國風と並び掲げて殆んど遜色なく殊に國民皆兵の我國振りを遺憾なく謳歌したるものに似て

初御空蝦夷の果まで御代の鐘

一茶

外ヶ濱

日の本へ来て紅つけし乙鳥哉

同

けふからは日本の雁そらくに寝よ

一茶

君か代の大飯喰ふてさくら哉

同

日本の外ヶ濱まで落穂哉

同

住よし

唐人も見よや田植の笛太鼓

同

我朝のものは見えぬ海鼠哉

同

蚊帳の月いらぬ天下をどらんより

同

河豚喰はぬ奴には見せな不二の山

同

神風の吹や一夜に酒となる

同

君が代や唐人も来て年籠

同

等の諸吟と共に軽々看過すべからざるの作也

血憂者其唯大己矣乎父素屯鳴
 子奉代主逢日神重代為高皇令
 塔德空頭回玉澤及蒼人州敬饗
 干朝遠重奈干万世是大丈夫過
 知於天子而令終者之故福福神
 夫福者福其德必不義之為矣因如
 浮玄年

敬持傳書



後明
 印
 印

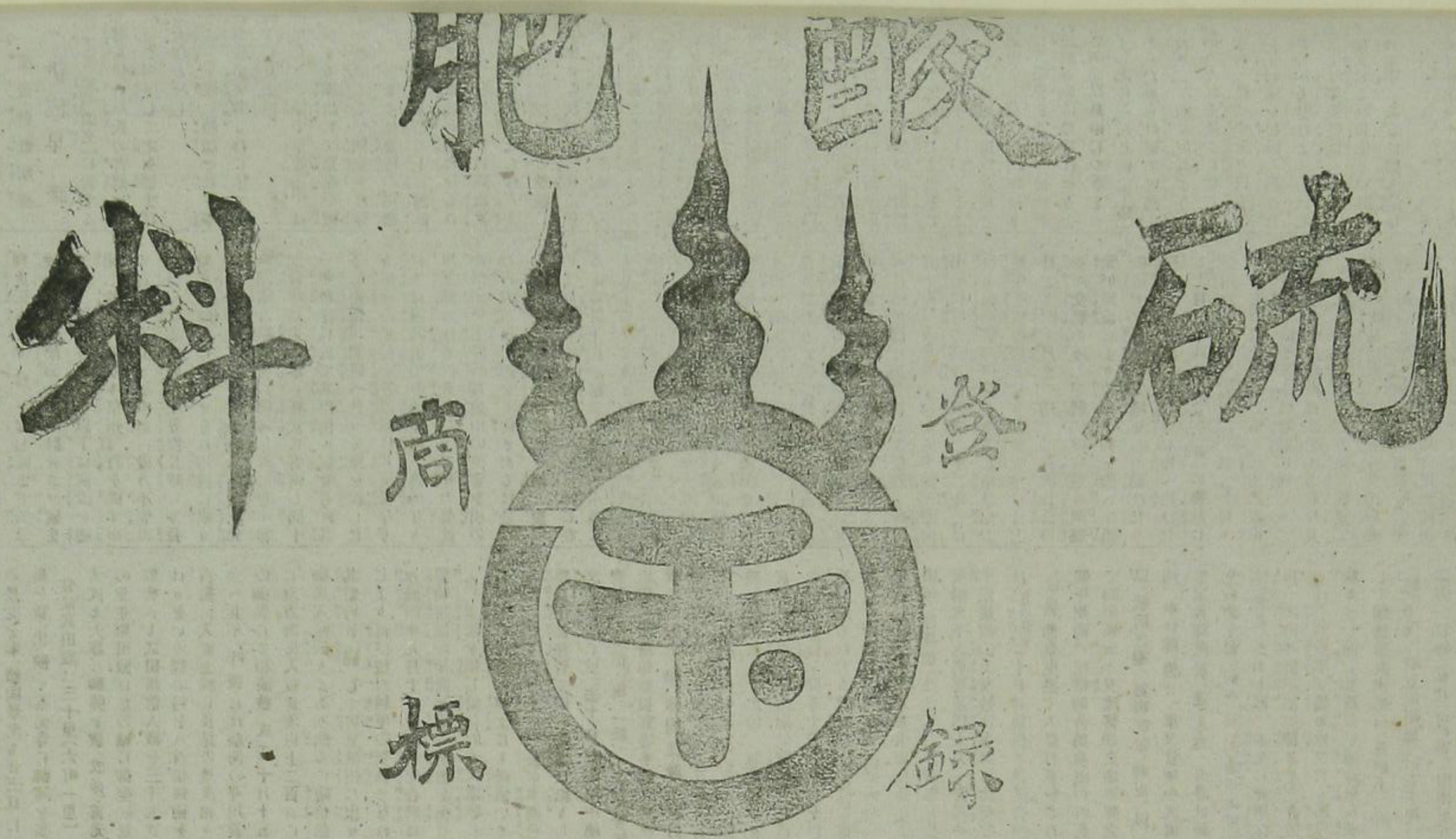
3777部城左社開新編新 新刊版七十五頁八葉受開新編新 日一月一見四十四部開 可部開新編新二部



式部
 (繪附)

竹内式部は徳川幕府の御用筆として、書物の講解に托し、公の功を褒める。復事成るに及ばざるの罪を重く責め、常一様々に依つて非ず。常に見振を遣る以て世教を輔。深奥の故事を小僧と雖も見も可して其行蹟に於て國を賑ふ及ばざる。偉大に傑う、徳明て宿願者に納す。いて會源を補ひ、比年自ら精足し、忍びや百姓の爲の、有司の荒政を諷諭。たり。井山徳川御説終に大徳の如く、りしは例々彼れが、静慮を觀る可く、爲の義烈二つなが、に非ざる也。此二、て生る。誰れ我が本紙が庚辰年首の、合作の臨筆を大、微意深し。

二人者の關係に於て、長乎る十二歳、式八箇の頃と推定(方、に於て)すれば其前、たる否やは分明なら、後にして日戸狩野、に依り一日歸郷し、都に遊び畫技大、進、進めしが、法、せずと雖も大、常、めに揮毫し、甲子仲夏と干支を、甲子は延享元年に、折なるを疑を容れ、起るに先、十二年、人は果して京都に



新 鴻 硫 酸 株 式 會 社
電 話 四 〇 〇 三 壹 壹 番

恭 賀 新 年

株式會社
新 鴻 鮮 魚 問 屋

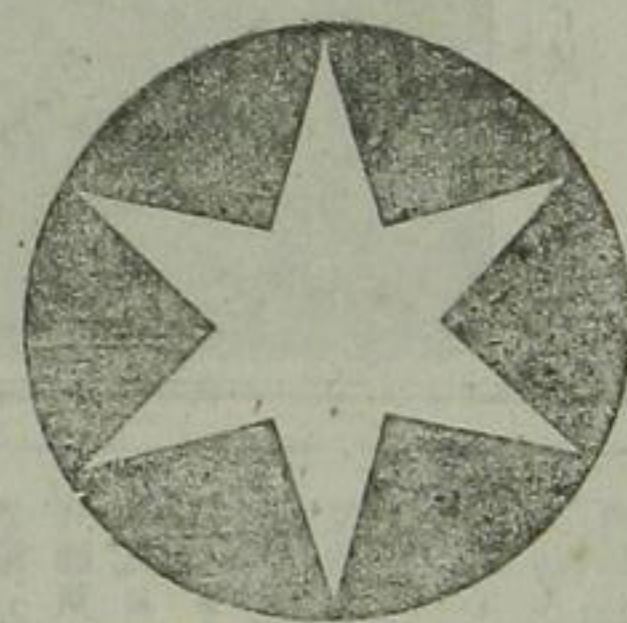
○當會社は新潟市唯一の魚市場にして他に魚問屋なし
○鮮魚鹽魚乾魚及魚介製造品御委託を受け販賣を爲す
○御委託品取扱は確實丁寧を旨とし迅速に勉強販賣す
○當社の仕切書は販賣實價を以て認め飽迄正直を守る
○仕切金は即時拂の規定に付遠方は電爲替にて送金す
新潟市本町通十一番町

取締役社長 片 桐 寅 吉
専務取締役 永 原 寅 松
甲部販賣係 伏 見 市 藏
乙部販賣係 片 桐 三 九 郎

電話 二二二三番
發電略號(サマ)

謹 賀 新 年

明 治 四 十 三 年 一 月 一 日



株式會社
新 鴻 銀 行

新 潟 市 東 堀 前 通 七 番 町

電 話 一 四 四 一 番
一 四 四 四 番

新嘉坡武林酸石鵝會社



鵝居堂選製自穎日錄

天朝 無心散筆 價銀二毫

翔雲 八雅先生用筆 以上上品中管動毛製無紙有心即常筆法最顯善書 價銀二毫

永和一 龍鬚 價銀三毫

騰猿 無心散筆 價銀二毫五分

無心散筆 無心散筆 價銀二毫五分

大王 蘭亭選 價銀四毫五分

梨花槍 巨細筆 價銀壹毫八分

董法草 無心散筆 價銀二毫八分

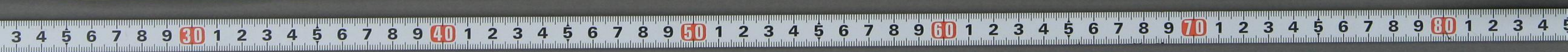
無心散筆 無心散筆 價銀二毫八分

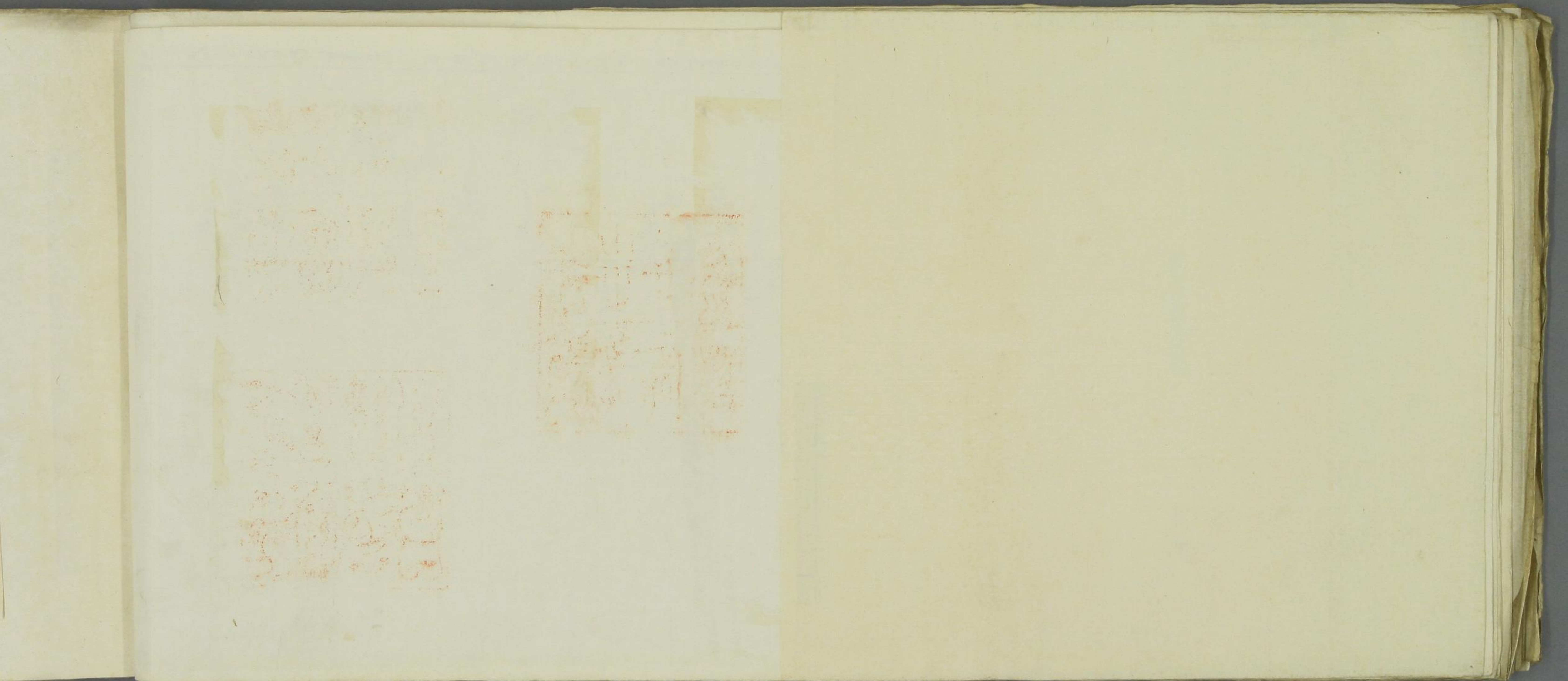
東坡水筆 仰觀 價銀九分

八斗才 咸集 價銀八分

即奇筆 小文筆 價銀六分

右所錄各種名筆皆經諸名家賞鑒者他有大小剛柔齊美數品不復煩載近有偽造贗冒本舖請諸君子認明印記
 小八以製二副筆者按面紙諸葛八道法而造中其如書莊須者據右軍筆經及國朝法大師其傳以紙裏紅根漸次刷之其中管者據筆什持筆經及求元明諸名家之說臺中參錄麻製之小人近者以造古製周經博雅及大齊國健一德似有小怡為三刷即卓即高者心常筆等諸法無地而不為至用發麻車真國朝小發妙法先以水及知苟得此款不待舶來之物而臨池之用可以應關矣小入本非筆上不必似以自刊欲詳錄其得通示西內華商驗其當否也 京師師小路京極街四 堂主然谷約噴謹白







附考

結城入道をみちのくは白河の人あり名を宗廣
 上野介と稱し落髪して道忠といひ又源秀と
 いふ孫太秀卿の後流とあり聞えし其事蹟ハ
 太平記の書と見えずなりとすしと太平記ハ
 入道とあり北條の催促に後い笠置の寄ゆむ
 うし鍾倉亡して後圓觀上人をきめて官方
 系ゆりしとありしなりとあり奥羽乃
 事ハありとありしなり入道論旨此請
 文は元弘三年四月高時追討の勅を受けたまひし
 其後一族の人を引つて新田小太郎とせし凶徒
 をうちとけし由をかきあつり右論旨並に請
 文と入道の遠孫出羽秋田は白河七郎の家ハ儼
 存し其餘古文書も亦多し故の白河藩士廣
 瀬以寧白河故事考とすの書を作るとき時此等の
 文を證して太平記の誤を辨しおけり此外ハ
 と太平記ハハ文かき事多しとありしなり
 入道ハ地獄に落しし事とありしなり

是るにいつてハ例の浮屠氏の証言にて辨せし
 りもたし

此ぬみ吹上此寺といふハ即光明寺のこと
 ありむしと吹上町といふとてかくを
 いふなり後寛文年中田禄よりて今此所ハ
 移りしと墓所ハ程もやの地ありて入道
 塔といふものも其内あり又寺の傳も不
 寺祖月波和尚と入道の子ありといふいま此入
 道夫婦の墓を見ん吹上の寺内侍者中又ハ

方丈浄房とありし其外詞のさみ子ははか
 するものとい見えんさしといふ福もあらぬハ
 一族の人ありとありし以上二説ハのさ更ハ
 辨論あれと事長はとハ南山遺芳録中ハ
 ありしとありしとありし

端書ハ村田四保入道村田一下とあり按ハ南方
 紀傳興國五年ハ條ハ村田の庄四保城主四保駿
 河守といふ人敵にせまりて妻とありしとありし
 由見えし結城文書に載せし北畠



准后う手翰おも同さぬよきしち村田四保とのとりて名号をあつり多うんあふいへる村田四保入道を上野入道の生前とて入道や称しつるハ駿河守ふをいふしつハ其父ふてもあつる村田のちハ常陸の國あること紀傳中前後此文ふてまゝ

後の文ふぬあつて入といつて結城の家かへるや舟田入道義昌ふあつて義昌を上野入道と先うて建武三年の戦い打死しうり

軍中日記を水府の大日本史塙氏の群書類後より光明寺蔵書殘篇といへる書より寺説より此も入道此筆といへるはつて見ると前後中手跡のさめもの同しういひつてゆへに此筆はつてつて其かみの實録より疑ふべくもつて福と入道親筆といはんはいと覺束りして此日記も笠置に寄手と結城七郎左衛門尉のこあつて上野入道なり楠城攻の武士も志うり即さきふいへる繪旨請文の

水府の群書類後より光明寺蔵書殘篇といへる書より寺説より此も入道此筆といへるはつて見ると前後中手跡のさめもの同しういひつてゆへに此筆はつてつて其かみの實録より疑ふべくもつて福と入道親筆といはんはいと覺束りして此日記も笠置に寄手と結城七郎左衛門尉のこあつて上野入道なり楠城攻の武士も志うり即さきふいへる繪旨請文の





玉、
高子
高子

高子
高子
高子
高子

高子
高子
高子
高子

高子
高子
高子
高子

高子
高子
高子





宋刻大觀帖內容見本

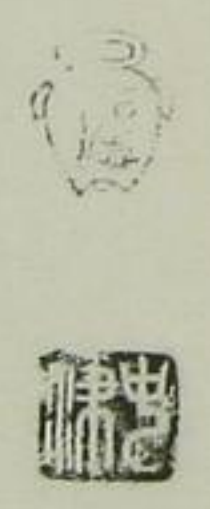
（正三年八月五日發行書院卷四卷四四號附）

漱五肉永醜 亦以無由之若然紙
摧哽以義之也
至少曰一日一記後中極個高
無所為之但取情之而已
侍中書、漢唐篆、危其為之

世以美治令人反何
亦濠乃生委然令人
深也
高二十五年曰清和而至此同書
後可不相二原連其一如無以奴

相得梅花

枝上魂





うるははるは
 典侍あよらむいゝ父の
 相の光に答へたる
 玄朝法師のしるし
 いてつゝをいふは
 典侍あまらけ
 雲わらふあまれを
 うらよそけ天っふとせ

糸今思ふは
 今思ふは
 ありては
 ありては
 ありては
 ありては
 ありては
 ありては



遊底倉溫泉記

夫底倉溫泉之治_疾也舊_其而縉紳家及
豪富者少過蓋以土地狹僻故_于雖然_其
其地也在山腹而前帶蛇骨河之流水聲漸涇
回首連山如浪濤廣_原會_弄翮_雖無絲
竹管絃之盛後_以陽舒幽情_其為其溫泉也
潺湲如練盛暑不熱冬寒不冷天旱不涸潦水
不溢不_亦奇_于哉或云諸溫泉皆然其_之湯治
疥癬木質_之治寒_症宮_之下_治土_積塔_之澤_發
六_醫堂_鳩治_麻木_湯本_之治_諸瘡_此其_傑然_善
何_稱揚_之甚_哉予_之物_亦能_有不_能各_所治_也
然_不若_底倉_治疾_顯著_矣予_固憂_疾萬_方
不_念於_此浴_此溫泉_奇日_冬之_偶日_瀟之_{如此}者
二十有餘日疾病復舊何_歎若_之平_而不_堪火_氣
徒_耽酒_色忽_禁忌_者不_可同_日語_一如_{主人}指_揮
者_靡不_念後_之忘_疾者_豈夫_可勿_心乎_哉

昔寬政三年八月

伊東昌子識於葛亭客舍

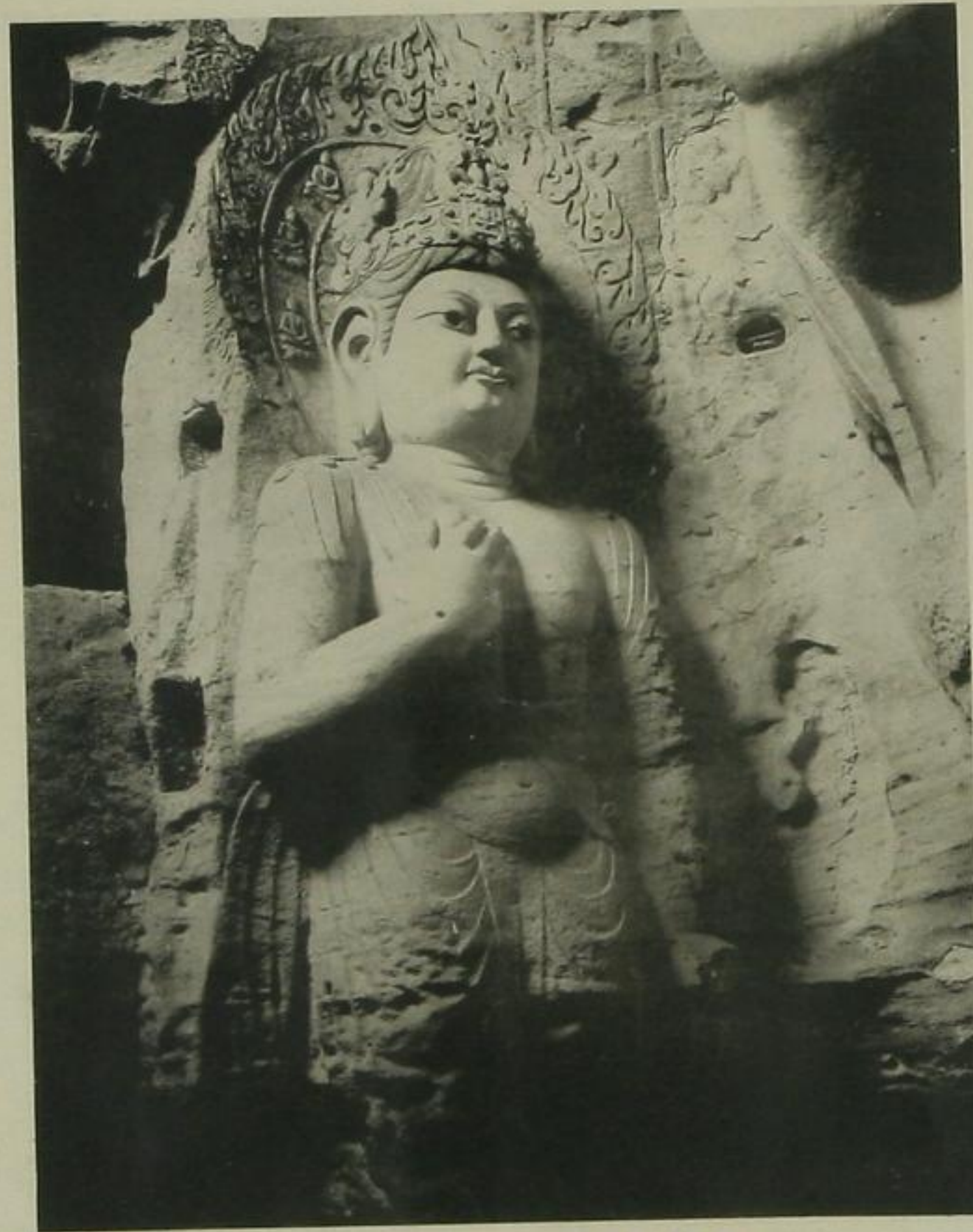
The Medicinal virtue of Hakone hot springs writtn one hundred years ago
Tsutaya Hotel Sokokura, Hakone.

(藏所屋葛倉底贈寄氏助之欣野岡)記能効泉溫根箱の前以年百壹



本 見

圖附篇塑彫史術美那支
圖七十四百四第



像薩善侍拱右佛大洞東寺佛石岡雲同大
(造曜曇魏元)

一六三

大正四年六月十日發行「佛書研究」第十號附錄
編輯人
發行所
印刷所

本 見

圖附篇塑彫史術美那支
圖六十四第

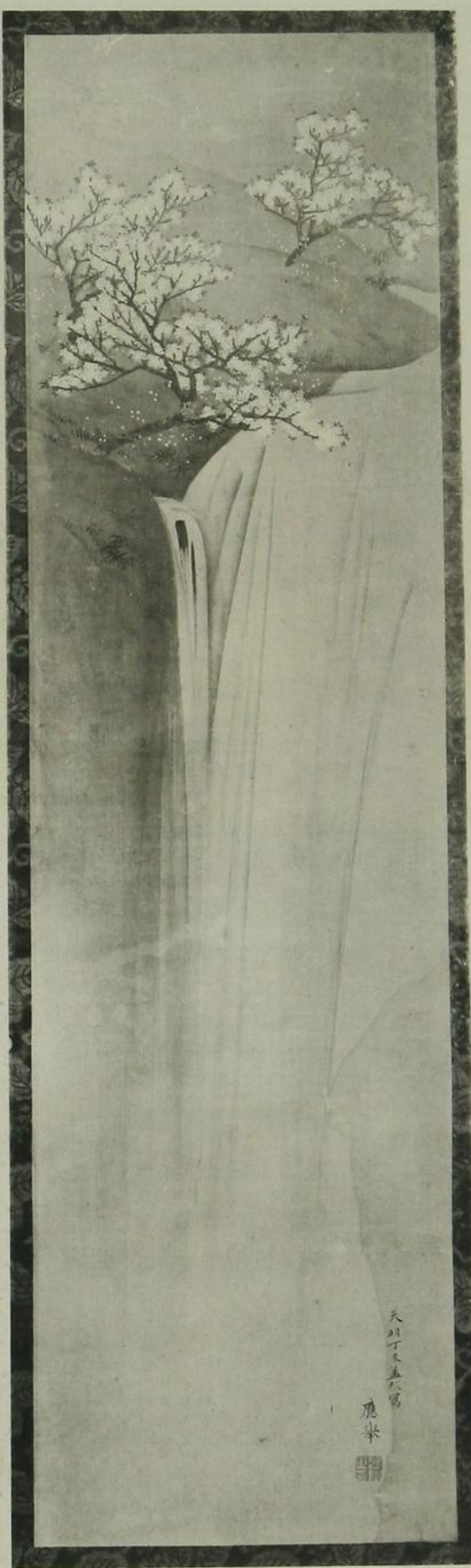


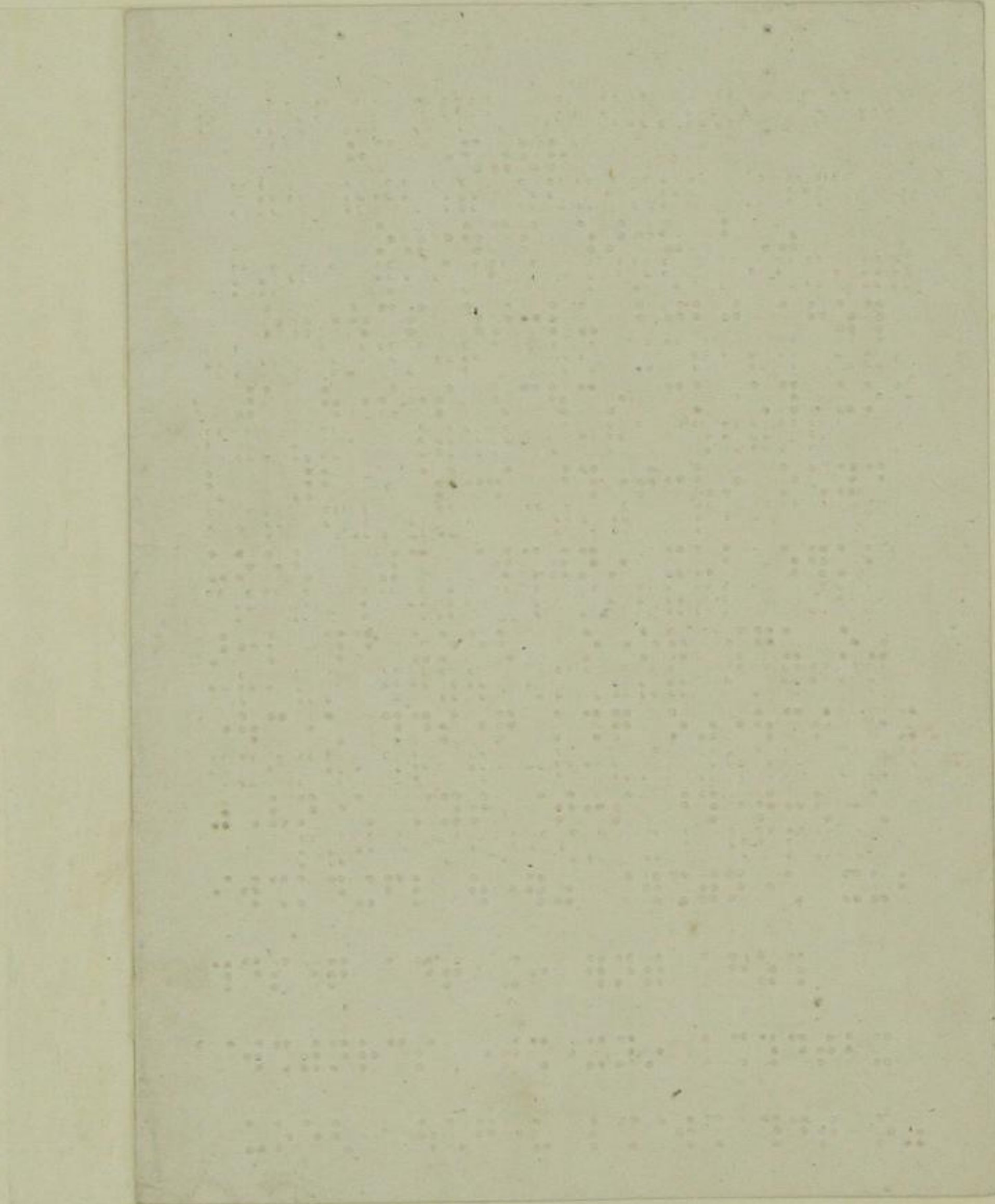
彝 鳥 周
(器 銅)

十一

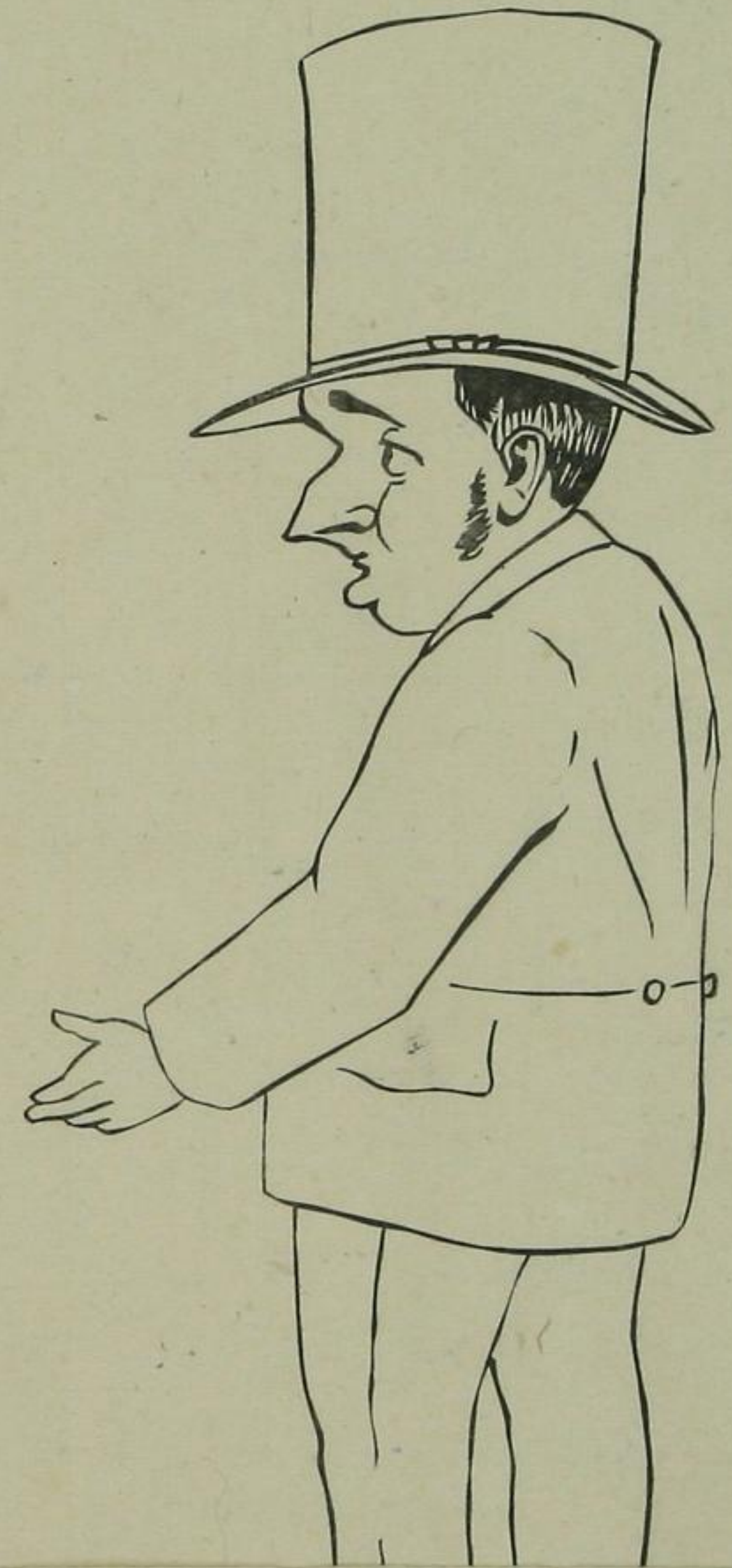
大正四年六月十日發行「佛書研究」第十號附錄
編輯人
發行所
印刷所







Richard Coeur de Lion



拜啓我が大阪ハ帝國ノ中心ニ居リ形勝勢便ニシテ兵備貿易
並ニ要樞ト為ス築港ノ一日ヲ緩クス可ラサル豈啻ニ大阪市
ノ隆昌ニ關スルノミナランヤ亦實ニ國家富強ノ計ヲ全クス
ル所以ナリ是ヲ以テ市民築港ヲ切望シ計畫年アリ但工事易
カラス費用莫大ナルヲ以テ未タ輒チ決定セズ調査日久シ去
年ニ至リテ設計始テ成リ市民奮發シテ工費ノ負擔ヲ議決シ
其幾分ノ補助ヲ國帑ニ仰ガント欲シ之ヲ政府ニ請フ政府之
ヲ容レテ議會ニ提出スルヤ時ニ戰後ノ經營浩繁ニシテ國費
多端ナリ且利害相争フテ之ヲ沮ム者アリ成否測ラレス
貴下衆議院ニ在リ斷乎トシテ大阪築港ノ急要ヲ唱ヘ其案ヲ
協賛シテ以テ國庫補助ノ議ヲ決ス是レ
貴下國ノ為ニ謀リテ公正ナル所以ト雖亦市民ノ熱誠ヲ諒シ
大阪ノ隆昌ヲ謀ルニ由ラズンバアラス市民豈感激セザラン
ヤ今茲十月十七日ヲトシテ築港起工式ヲ擧ク是ヨリ全市人
民欣躍事ニ從ヒ費ト勞トヲ惜マス以テ期ノ如ク工ヲ竣リ百
年ノ長計ヲ成サンコトヲ誓フ他日煥乎トシテ觀ヲ改メ地雄ニ
シテ物阜ンニ東洋ノ一大市場ト為リ以テ富強ノ實ニ資スル
ヲ得バ則獨市民ノ洪福ノミナラザルナリ嗚呼是レ
貴下ノ賜ナリ謹ミテ謝辭ヲ呈シ聊微忱ヲ表ス不宣

明治三十年十二月一日

大阪市參事會

大阪府知事時任為基

衆議院議員

市島謙吉殿



東京
早稻田大學理事
市島謙吉



奉天汪君

啟



神山春滿櫻花亂飛蓬海風高賓客斯集當
敝團來游之日承
貴國誠意之迎或開高會以論親交或啓華
筵以通心志或投珍物肇百年紀念之盃或
餽圖書讀三島文明之史或熱心指點備知
經營締造之艱辛或到處送迎盡免跋涉風
塵之困苦
友邦盛誼感謝同深謹藉寸楮用表心曲專
此上啓即頌
健康

宣統二年五月

清國觀光團汪洋等同啓





可樂

惟明治三

十年可酒

東京
早稻田大學理事
市島謙吉
奉天汪君
啟



神山春滿櫻花亂飛蓬海風高賓客斯集當
 貴國誠意之迎或開高會以論親交或啓華
 筵以通心志或投珍物擎百年紀念之盃或
 餽圖書讀三島文明之史或熱心指點備知
 經營締造之艱辛或到處送迎盡免跋涉風





十月十七日
行大阪

築港起

之武子親

東京
早稻田大學理事
市島謙吉
奉天汪君
啟



神山春滿櫻花亂飛蓬海風高賓客斯集當
團來游之日承
貴國誠意之迎或開高會以論親交或啓華
筵以通心志或投珍物擎百年紀念之盃或
餽圖書讀三島文明之史或熱心指點備知
經營締造之艱辛或到處送迎盡免跋涉風





臨之沈集
后而期其

成功矣

參謀總長陸軍大將大勳

東京
早稻田大學理事
市島謙吉
奉天汪兆銘



神山春滿櫻花亂飛蓬海風高賓客斯集當
歡團來游之日承
貴國誠意之迎或開高會以論親交或啓華
筵以通心志或投珍物擎百年紀念之盃或
餽圖書讀三島文明之史或熱心指點備知
經營締造之艱辛或到處送迎盡免跋涉風





位功無級彭仁親王

東京
早稻田大学理事
市島謙吉
奉天汪君
啟



神山春滿櫻花亂飛蓬海風高賓客斯集當
歡團來游之日承
貴國誠意之迎或開高會以論親交或啓華
筵以通心志或投珍物擎百年紀念之盃或
餽圖書讀三島文明之史或熱心指點備知
經營締造之艱辛或到處送迎盡免跋涉風



